

# 徳島 の剣道



第 2 号

徳島県剣道連盟

## 一、剣道の理念

剣道は

剣の理法の修練による

人間形成の道である

### 一、剣道修練の心構え

剣道を正しく真剣に学び

心身を錬磨して 旺盛なる気力を養い

剣道の特性を通じて 礼節をとうとび

信義を重んじ 誠を尽して 常に自己の修養に努め

以って 国家社会を愛して

広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである

以上

# 巻頭言

徳島県剣道連盟会長 三木只雄

昭和六十年度は、本県剣道界にとり、誠に喜ばしい年でありました。

全国大会等に於て、それぞれ輝かしい戦跡を残され、心技共に躍進されたことであります。

一般の部では、県警・近藤剣士が、全日本剣道選手権大会に於て優勝戦迄駒を進めたこと、中学生の部では、市場中学の長井剣士が全国中学校選抜剣道大会にて斎村賞受賞、小学生の部では木頭村北川小学校の女剣士・小藪さんが全国小学生選抜剣道大会にて優勝、又、四国中学総体にては、学校対抗で阿波中学剣道女子部が、県対抗では木頭中学を主力とした剣道女子部がそれぞれ優勝と活躍され、大いに賞讃さるべき快挙であり、本県剣道界にも逞しい息吹きが感ぜられ心強い限りであります。

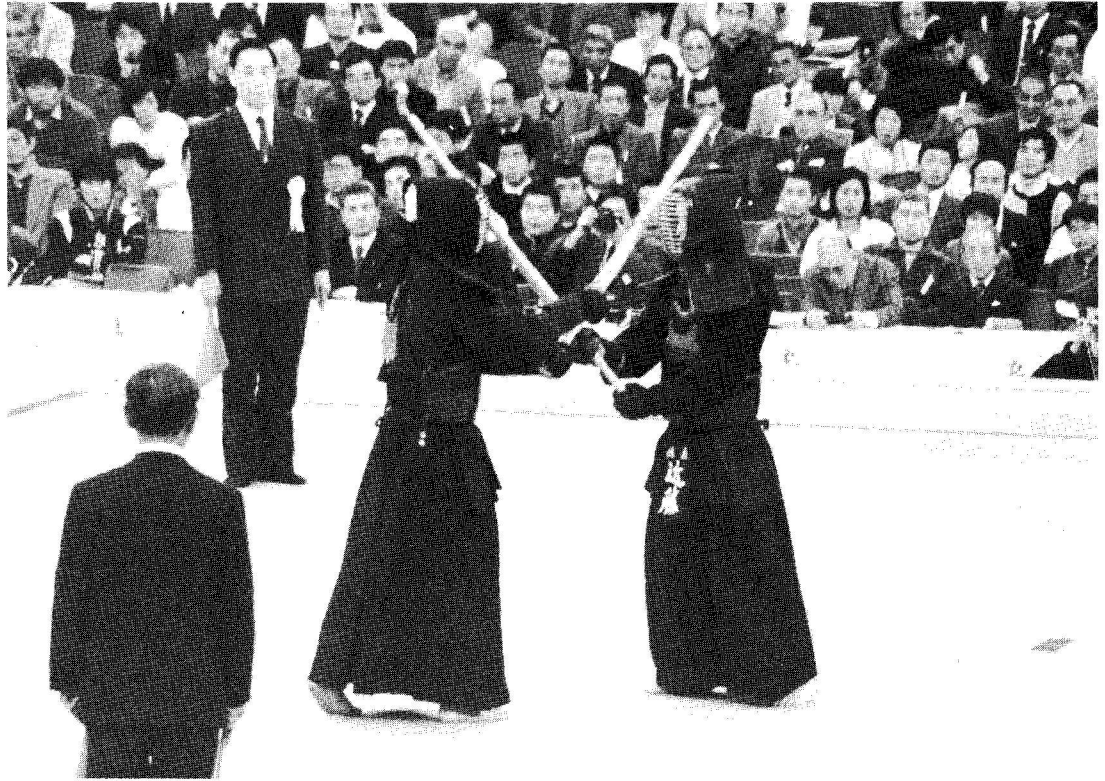
剣の道を嗜む者としては、これら優秀な選手達に、心技共に追いつき追い越せの気構を發揮し、忍耐強く修練努力を期待するものであります。

更に、武道家が待望されていた懸案の心身修練の道場、県立武道館も関係機関の御尽力と三木県知事、三木徳島市長の深い御理解と御高配により近く設立の緒に就くと云う運びとなり、又、六十八年度四十八回国体も剣道会場が徳島県に決定、将に前進元年の年であると存する次第であり、本県剣道界が初心に返り、寅年に因み一層の躍進を切に念願しつつ!!

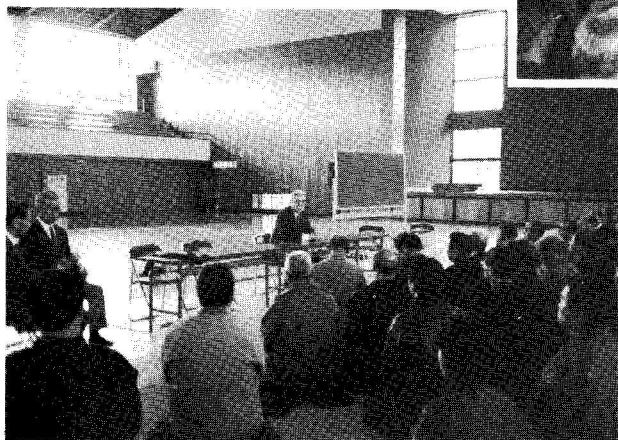
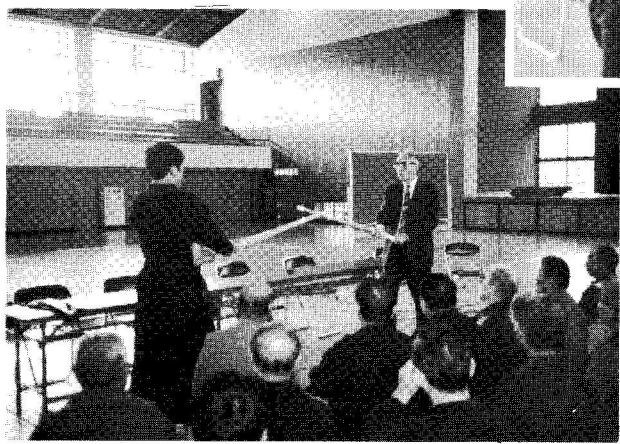
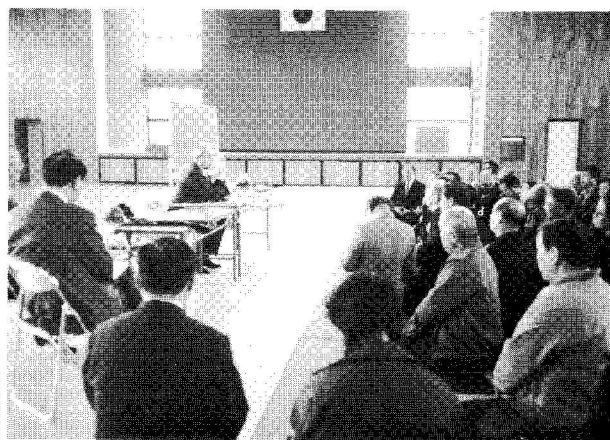


近藤選手、全日本準優勝

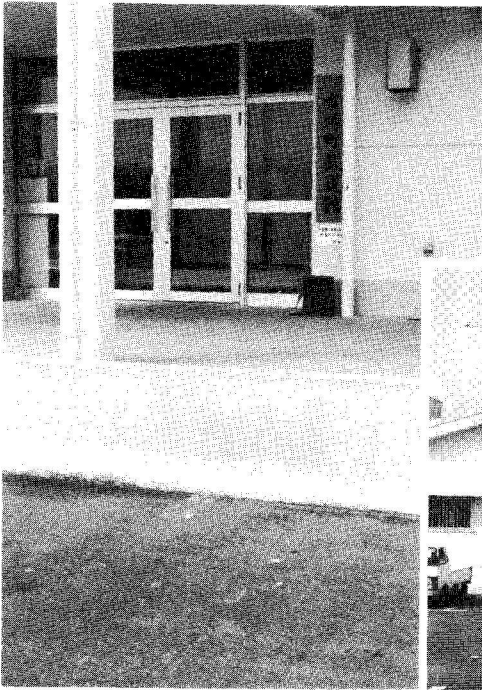




# 松本範士を迎えての講習会



増加する市町村立武道館（市場町武道館）



夏の教職員講習会



# 目次

巻頭言	会長 三木只雄	1
日次		
剣道の今後の在り方について	理事長 堀江幸夫	1
近藤選手全日本剣道選手権大会準優勝		2
徳島の剣道(各バートからの報告)		8
全国大会に参加して		12
昭和60年度戦いの跡		19
「剣道から学んだもの」(アンケート)		31
支部だより		36
昭和60年度昇段者名簿		40
昭和61年度剣道・居合道昇段審査学科試験問題・解答例		43
昭和61年度行事予定		65
昭和61年度役員一覧表		67
編集後記		69

## 〈表紙〉

題字 堀江幸夫徳島県剣道連盟理事長  
 絵 伊原秀文徳島県剣道連盟審議員

表紙の絵は、新しく完成した  
 大鳴門橋を描いたものです。

# 剣道の今後の在り方について

徳島県剣道連盟理事長 堀 江 幸 夫

一、剣道は長い歴史の中で、武技として実用性の極度に高い時代と、平和で格闘技の不必要な時代の繰返しの中で錬りにねりあげられた末、高度の日本民族の精神文化に育てあげられたことは、私どものひとしく認めるところである。

昨今剣道がスポーツに、ややもすれば競技本位になり勝ちで、技の末に走り本来の姿を見失いつつあるかに巷間取り沙汰されているようであるが、それはあたかも高度の技術革新により、精神面を見失い勝ちの現代社会と軌を一つにしているようだ。

今日少年剣道の著しい隆昌の原因は、男性的な剣道のカッコ良さ、礼儀が正しく秩序意識が出来るとの父兄の期待が大半である。

即ち、技を競う練習をとおして心の修練に到る過程の礼儀作法から躰が高く父兄に評価された結果である。が、省みて今その父兄や少年達に吾々は、はたして十分に應えているだろうか。大きく胸を張って、しっかりと答えるにはいささか躊躇せざるを得ない実情ではなからうか。

勿論指導者のみの責任とは言えない。今や父兄も共に初期の白らの期待を忘れ競技志向になっていることも事実である。

今こそ指導者も父兄も正しい軌道に修正すると共に、精神文化としての剣道の本質理解に努め、少年達の期待に應えなければならぬ。

特に私たち指導的立場にあるものは、常に白らの研鑽に努め真摯な態度で示範すべきでないだろうか。

先人は「学ぶ心のない者は教える資格はない。」と厳しく俱学俱進の姿勢を教え求めている。

剣道は行である。行を抜きにして剣道を論ずるのは机上の空論にして、剣道の本質の片鱗にもふれることは得ないだろう。

今日の剣道はたしかに日本古来の伝統剣道と近代競技剣道の二つの姿がある。

私たちはこれを十分に理解し、この二つを対比し、その態様、指向目標等剣道の古典的思想の殻より脱皮広い視野にたち、これら多元的修業目標を充足さすべく体制の確立を期さねばならない。

山頂への登山道は違っても、必ず山頂をめざす登山者の如し、その種々の目標の修業を通じて剣道の真機に導くべく責務を荷っていると考えるのは思いあたりであろうか。登山者を遭難さすことなく山頂（剣心）に導かねばならない。

又今日社会体育の課題は、学校体育から如何にそれを継続させて生涯に実践させるかにかかっていると云える。

この点においても剣道は、社会体育に一つの指針を提供していることは周知のとおりで、今後の剣道の在り方は、多元的目標から導入した剣道人を如何に剣道の理念の把握まで導くかにある。

## 特集

### 近藤選手

#### 全日本剣道選手権大会準優勝

### 近藤亘選手の高校時代

県剣道連盟副会長 清原 栄

私が阿南工業の剣道講師に招かれて二年目、昭和四十五年春に近藤君は驚敷中より機械科に入學し、米倉君等と十名が入部したが、一年後に第十八回全国高校総体が徳島県で開催される強化校になっていたので一年生より相当厳しく鍛えました。翌年県総体に優勝し、全国総体に出場が決り、一層稽古も激しく統率力のよい金国主将の許で合宿練習や県外遠征の機会に恵まれ、得がたい体験を積みました。三年生の時は、(先米倉次久川)近藤(副浜高)大江と粒揃いの前年度に優るとも劣らぬメンバーでしたが、総体の決勝リーグで富西に勝ちながら本数負けでインターハイに出場出来ず、四国国体予選は香川の強豪琴平に勝ち、高知・琴平・阿南工の二勝一敗の三巴になり、本数負けで国体にも出場出来ず不運な最後になり、勝負の世界の厳しさを充分体験して卒業したことを思います。高校時代の近藤君は体格もよく、剣は真直な大型選手で面小手が得意でしたが、足さばきが悪く度々注意したことを思い出します。学業も優秀で性格は明るく、素直で責任感も強く、労をいとわず人の世話もよくするよい選手で誰からも好かれていました。卒業後米倉君とライバル同志が県警へ合格。「学ぶには師を選べ」とか。堀江先生という立派な先生に巡り合い、厳しく鍛えられました。インターハイ強化で鍛えた闘志と30軒の通学の根性、堀江先生のご指導の稽古も欠かさず、努力努力の積重ねがこの栄誉を勝ち取ったものと思います。「努力は天才に勝る」を立証した尊い近藤君の準優勝、この上もなくうれしい。おめでとう近藤君。

後輩達も頑張つて近藤君につづいてほしい。

### 近藤選手の中学校時代

驚敷町長 助 岡 克 則

日本一々そうです。剣道日本一を争うた男が徳島県から出現したのです。なんて素晴らしいことなのでしょう。昭和六〇年度全日本剣道選手権大会に於て、わが徳島県代表の近藤亘選手が各府県代表選手の中にあつて勝ち進み、惜しくも準優勝とは言え優勝戦を戦つたのです。本県剣道界にあつては特筆大書すべき事だと思ひます。さきに昭和五八年度の同大会では福多稚英選手が三位に輝き、そして今度は近藤選手が準優勝です。全国剣道界に徳島剣道が大きく見直されたことと思ふとき、その功績の大なるを思はずにはいられません。

私と近藤選手の出逢ひは、彼が驚敷中学校剣道部へ入つて来たときからです。おとなしい物しずかな少年でした。稽古は真面目で、非常に熱心であつたのを覚えています。ただ忘れられない事があります。それは三年生が二期期を境に退部して、二年生の彼が新チームのキャプテンに選ばれました。それからの各大会では優勝から縁遠いものとなつていきました。私が先輩の吉田先生にかわつて監督を引受けて二年目でした。なんとか優勝をさせてやりたいと毎日猛練習をしたものでした。キャプテンはチームをよくまとめて練習しました。三年生になつて、いよいよ中体連の郡大会がやつて来ました。驚中の先生方の中には「剣道部が優勝したらグラウンドを逆立ちして三周するわ」とまで言った人も居ました。それがなんと見事に優勝したのです。殆んど人は「あつ」と驚きました。下馬評にものぼつていかなかった驚中が、熱戦に熱戦をつづけ、接戦の末優勝したのです。キャプテンの近藤君がよくチームをまとめて来たお蔭です。勿論県優勝し、四国大会へも出場しました。この事と、此度の全日本準優勝を考えると、目立たない存在のようである大事をなす男だなあ！とつくづく思ひます。今後一層の精進をして大成されんことを望むと共に、第二第三の近藤選手につづく若手剣士の出現を期待して止みません。

## 近藤巨選手について

徳島県警剣道師範 坂下彦之

昭和六十年度、第三十三回全日本剣道大会において、近藤巨六段が準優勝という、立派な成績を挙げましたが、これは徳島県剣道史初めての記録であり、我々警察剣道にとって大きな成果であり、また喜びであります。

近藤巨君は、昭和四十八年、徳島県巡査を拝命。当時はまだ十八歳の色白で好顔の美少年で、とても今日のようにならうとは想いも及ばぬものでしたが、しかし昭和五十年の春、定期異動で現在の機動隊に入隊と同時に剣道特練生に指名され、以来十年の間、機動隊の厳しい訓練にまた剣道に精勵。昭和五十六年巡査部長に昇任、今は機動隊になくはならない、頼りになる立派な分隊長殿である。

剣は心なり、と云われるが、近藤君の剣道は真にそのとおりで、正攻法の素直な剣道は、この度の大会でも高く評価されているのは周知のとおりですが、しかし近藤君は、決して天才でもなく、また器用でもありません。剣道については、本当に不器用だと私は思います。

では何故、今日の近藤があるのか。その一つは、立派な良き師に恵まれたこと。今一つは、米倉滋君と云う良き友人、良きライバルが常に居たこと。それに加え何と云っても彼自身の人に倍する精進努力によるものである。その努力とは、武道館の早朝稽古、特練生の午前・午後の厳しい特訓、そして夜の稽古。竹刀の音有るところ、近藤有り。「剣道気違い」真にそのとおり。私は素晴らしい気違いだと思います。

近藤君は剣道だけでなく、機動隊における勤務成績も極めて優秀で、本部長賞を数多く受賞しておりますが、その一部を紹介しますと、五十六年・勤務成績優秀につき賞詞、五十七年・四国警察駅伝大会優勝の功により賞誉、五十九年・海南町における殺人事件の犯人逮捕の功により賞誉、六十年・全日本選手権準優の功により賞詞、また六十二年二月・県下警察けん銃射撃大会において団体優勝、個人第二位入賞等々、警察各部門において立派な成績を挙げていますが、これは剣道のみならず、何事にも常に真剣に取りくむ近藤君の努力が為し得たものであります。

ません。

この度の準優勝は、昨日までの努力がやっと花を咲かせ、明日からの努力が必ず素晴らしい実（優勝）をみのらせるものと思います。

48団体剣道競技の本県開催が決定しましたが、県下の少年剣士の皆さん、近藤選手に負けない素晴らしい「剣道気違い」に一人でも多く成ってくれる事を大いに期待しております。

## 今思ふこと

阿南工業高等学校 鎌田 恵

光陰失の如しとか申しますが、近藤巨君が、県立阿南工業高等学校の学窓を出て、はや十三年の歳月が流れた。

彼が入学したのは昭和四十五年の春。丁度その年は四・六総体の前年であり、先輩達は高体連剣道専門部の指導で、強化合宿、遠征の連続で、徳島県での全国高校総体は一応の成果をあげた。しかし、一年生ではどうい選手としての機会はなかった。そして四十七年、彼等の出番となった。戦績は、県高校総体のみ三位、あとはすべての県内公式大会に於て優勝という、本校剣道部最高の画期的な成績を残した。

さて当時の彼であるが、当初、持前の力を充分發揮できず、正選手を不動のものとしたのは二学年の後半からであった。特に四十七年度団体四回予選で、中堅として出場し、新田高、琴平高に連勝したことは、彼のその後の剣道に大きな自信となったことであろうと思われる。

今思うに、彼は剣道において器用さとか人とかけ離れた力量の持主というのでもなかった。しかし、性格の素直さ、根気強さは人一倍の稽古熱心さとなつて顕われていたようだ。

そして今回、第三十三回全日本剣道選手権大会第二位という輝やかしい成果を挙げられましたこと、この快挙は、本校創立以来、いや、徳島県剣道界初めてのことである。

本校でも、全校集会で近藤巨君の第二位入賞の栄誉を披露し、全校生徒で祝福した次第です。

今後、この成果に甘んじることなく次の目標に向かって、努力精神されま  
すことを祈ってやみません。

## 中学校時代の思い出

生光学園高等学校剣道部監督 加藤 陽 一

私たち同年代で、鶯敷中学校剣道部に籍を置いた者は、十五名程でした。  
その中に、これで剣道ができるのかなあと思うほど、色白で、体の小さい  
のがいた。それが、全日本剣道選手権大会で、第二位の成績を残した徳島県  
警機動隊の近藤巨君なのです。前にも述べた通り、近藤君と私は、鶯敷中学  
校時代の同級生で、共に汗を流し、涙を流した仲間です。

性格は、非常に真面目でおとなしくて素直で世話好きな人間でした。

近藤君は、入部当時から常に、僕は体が小さいので、人の倍の努力をしな  
ければならないという事を常々云っており、主将に選ばれたのも、人の倍の  
努力をしたからこそ主将に選ばれたのだと思っています。

また、剣道に於ては、近藤君の性格そのまま表われているようで、姿勢、  
構え、打ちについても全く曲がっている所がなく、何事にも真つすぐであり  
ました。

他の私たちでも、あのように打っていきたくないなあと近藤君の剣道に憧れた  
ものです。

非常に練習熱心で、全体の練習が終了後でも一人で残って、鏡に向かっ  
て素振りをしたり、走ったりしていた彼の姿を今も思い出します。

私たちも、近藤君のそのような姿勢をみならって、負けてたまるかと思っ  
て素振りをしたり、走ったりよく練習したものです。

大会に於ても、初めのうちは他の中学校に負けてばかりだったのですが、  
これではいけないと近藤君が先頭に立ち、練習計画を組み変え、一日も休ま  
ず日曜日とか休みの日には朝早くから夜遅くまで、ただひたすら練習、練習  
の明け暮れで、郡大会、県大会に優勝し、四国大会に出場する事ができまし  
た。ここまで私たちがこられたのも、近藤君の活躍があったからこそだと思

っております。

全日本剣道選手権大会に於て、第二位というすばらしい成績を残した近藤  
君は、私たち鶯敷中学校剣道部同窓生の誇りです。

次の全日本剣道選手権大会にも是非出場して、優勝を成しとげていただき  
たい。

## 私と剣道

近藤 巨

私が剣道を始めたのは中学一年生の時でした。始めたきっかけは「チャン  
バラが好き」という単純な理由からです。それが今では、剣道を抜きにした  
生活は考えられないくらい生活に溶けこんでいます。

では、中学時代の思い出から思いつくままに書いてみたいと思います。

鶯敷中学時代、剣道の手ほどきを助岡先生、吉田先生に受けました。

剣道を始めて最初に感じたことは「痛い」ということです。竹を編んだだ  
けの胴でしたので、胴を打たれるとしばらく息がでないくらい痛く、また、  
ひじ、脇などもアザがしょつ中という具合でした。

初陣は、中学一年の郡大会・個人戦であったと思います。試合の始まった  
とたん飛び込み胴を立て続けに二本取られ、何もしないまま負け。あつけな  
い試合でした。

私達のチームは、試合に出ても一、二回戦で負けてばかりいたのですが、  
中学三年の県南大会で準優勝したのに勢いづき、郡大会、県大会と優勝し、  
四国大会にも出場することができました。中学時代のいい思い出になってい  
ます。

高校は阿南工業に進学し、清原先生、勢井先生、鎌田先生にご指導いただ  
きました。

入学当時、阿南工業は創立九年目という新しい学校で、稽古場の確保もま  
まならず、体育館の八分の一位の狭い所で稽古を行うといった状況でした。  
しかし、剣道部が強くなり始めた時期で、先輩も強く同級生も強い者が多

かったため、試合に出場するということが大変でした。ですから、高校時代は楽しい思い出よりも苦しい思い出の方がよく頭に浮かびます。

最もつらかったのは、高校三年の県総体のとき、一回戦でふがいないうけ方をしたために、次の試合から後輩にメンバーチェンジさせられたのです。その夜宿舎のフトンでくやし涙が止まらなかったのを思い出します。

しかし、この思い出は「二度とあんなくやしい思い出はしたくない」ということで、それ以後私にとっていいカンフル剤になっています。

高校での心残りは、インターハイ、国体に出場できなかったことです。

高校を卒業後、警察の道に進みました。そして、堀江先生、坂下先生にご指導いただいています。

警察に入って、まず一番に感じたことは、自分の体力のなさです。機動隊での厳しい訓練、一日三回の稽古、自分の気力、体力の限界ではないかと感じたこともありました。それでも、少しずつ自分の体力にも自信が出てくると共に、堀江先生その場、その場に應じた適切なご指導により、剣道に対する考え方が変わってきました。そうすると、剣道が楽しくなり、もつともつと強く、りっぱな剣道をやりたい、という気が沸いてくるのです。

ひきつづき、昨年十一月三日、日本武道館において開催されました、第33回全日本剣道選手権大会について書いてみたいと思います。

私は、徳島代表としてこの大会に出場し、決勝戦まで進出いたしました。残念ながら大阪府警の石塚六段に一本負けで優勝を手にすることができませんでした。

この大会には、全国から六段以上の剣士五十八名が出場し、トーナメントにより試合が行われました。

出場者の平均年齢は32・7歳。職業は、警察官が最も多く35名。ついで教員の17名、その他6名でした。出場回数は、1回目・2回目の出場者がそれぞれ14名、3回目、6名、4回目、11名、その他、13名。そして10回出場の高知県、川添六段と岩手県、明石六段の2名には、記念として剣道連盟より胴が授与されました。

私は30歳、4回目の出場になります。

試合の結果は次のとおりです。

1 回戦 不戦勝

2 回戦	近藤	メコ	メ	橋本六段(京都)
3 回戦	"	ココ	コ	松下六段(鹿児島)
4 回戦	"	メメ	メ	坂本六段(大阪)
準決勝戦	"	メ判	メ	北村六段(熊本)
決勝戦	"	一本勝	メ	石塚六段(大阪)

この大会を振り返って一番苦しかったのは、3回戦の松下六段との対戦です。この試合に勝てば昨年と同成績のベストエイト、絶対勝ちたい、と考えるとプレッシャーがかり思い切った技が出ず、苦戦の末辛勝しました。

また、準決勝戦の北村六段との対戦も一本一本勝負、延長2回の末、判定勝ちという苦しい試合でした。

そして決勝戦。大阪府警の石塚六段との対戦です。石塚六段とは過去2回対戦し、2勝している相手で、思いきっていけばなんとかなると考えていました。ところが石塚六段の気力が勝っていたのでしょうか。試合開始後、間もなく意表をつくかつぎ面を打ってきたのです。一本にならなかったものの私はそれから後手にまわってしまい、結局時間間際に面を打たれ、一本負けを喫してしまいました。

決勝戦において、準決勝までのような先の心を忘れなければと思っても、あとの祭りです。しかし、破れたものの準優勝できたことは大きな自信となりました。

今後は、試合中何をされようとも動じない心「不動心」を日々の稽古で養いつつ、終始先の気で攻め通す、野性味あふれる剣道を身につけていきたいと考えています。

最後になりましたが、私は、中学、高校、警察とすばらしい師ならびに剣友にめぐり会えたことを深く感謝しています。また、三木会長はじめ県剣道連盟の方々の温いご支援に対しまして厚くお礼申し上げます。思いつくままに書き、読みづらい文章をお許し願いたいと思います。

# 近藤選手の剣歴

## ● 県下段別選手権大会

優勝

五段の部

S 53  
・ 10  
・ 22

六段の部

S 60  
・ 9  
・ 8

## ● 全国警察剣道大会

第三位

S 56  
・ 11  
・ 4

## ● 西日本勤労者剣道大会

第三位

S 57  
・ 6  
・ 13

## ● 全日本剣道選手権大会県予選

優勝

S 52  
・ 10  
・ 23

## ● 四国四県剣道大会

優勝

S 55  
・ 5  
・ 25

## ● 近県剣道団体優勝大会

優勝

S 54  
・ 11  
・ 25

## ● 社会人剣道大会

優勝

S 54  
・ 9  
・ 15

## ● 中学総体郡大会

優勝

S 47

## ● 教員、警察、実業団対抗剣道大会

優勝

S 58  
・ 7  
・ 17

## ● 中学総体県大会

優勝

S 47

## ● 全日本剣道選手権大会

ベスト8

S 59  
・ 11  
・ 3

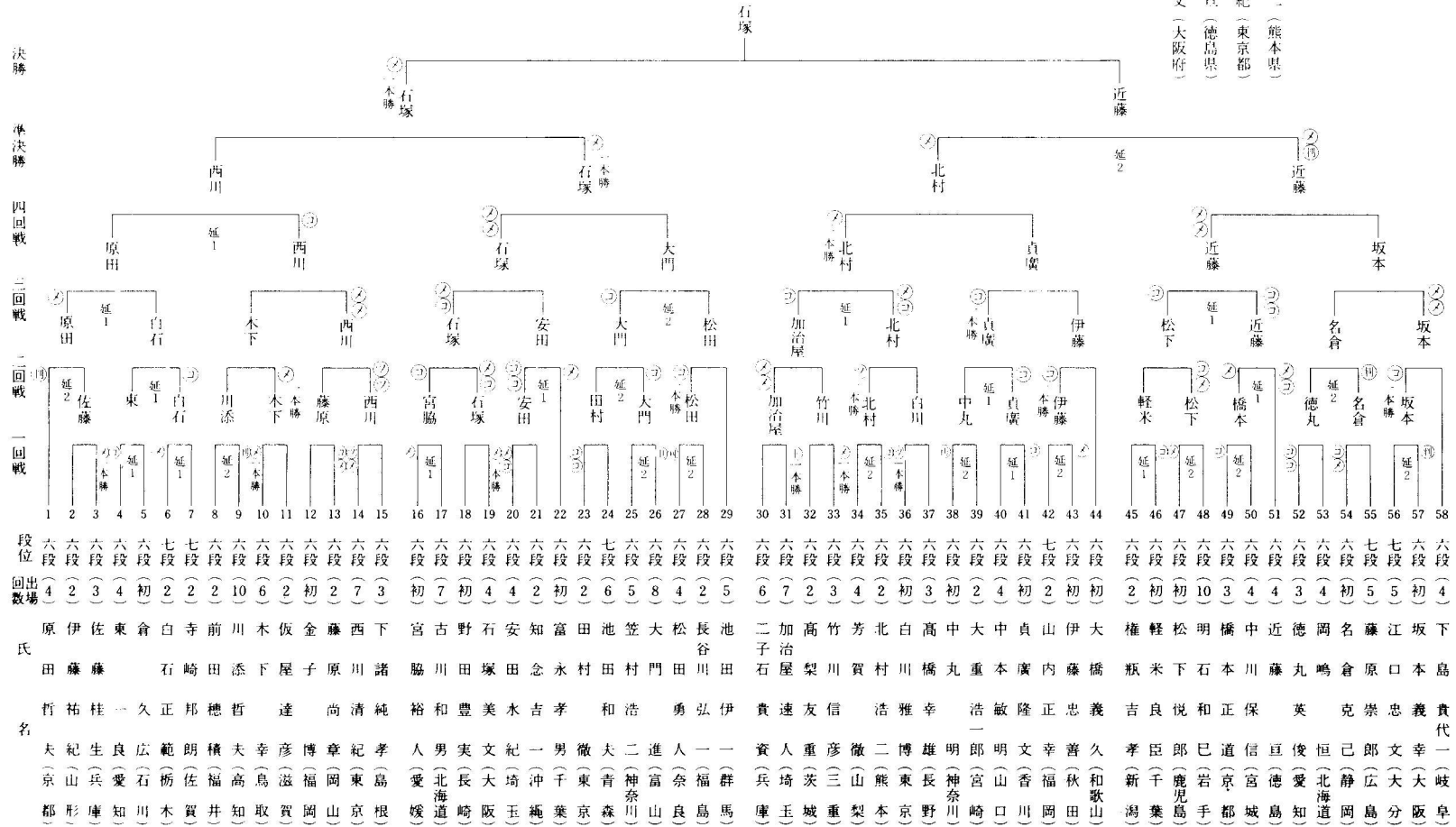
準優勝

S 60  
・ 11  
・ 3



# 第33回 全日本剣道選手権大会成績表

第三位 北村 浩二(熊本県)  
 第二位 西川 清紀(東京都)  
 優勝 石塚 美文(大阪府)



# 徳島の剣道

## 各パートからの報告

### 一般

徳島県剣道連盟事務局長 坂下彦之

本年度は、11月の全日本剣道選手権大会において近藤（県警）が大活躍、決勝では惜敗したものの堂々準優勝。昨年に引き続き上位進出で、一昨年の福多（徳島農高教）と共に、本県の剣道界に大きな刺激を与えた。

県内の大会では、三者対抗（教員・警察・実業団）が警察、武道館開館記念大会は直心館、社会人大会は県警A、段別選手権は、三段佐賀（県警）四段吉田（県警）五段福多（徳島農高教）が優勝。

4月と11月には、松本敏夫範士九段を迎え、講習会を実施。7月の暑中げい古、一月の寒げい古にも多数の参加者が集まった。

昭和68年度に行われる48国体に向けての準備も着々と進みつつある。3月16日(日)には、鳴門武道館へ県下の小学校三・四年生からの選抜選手を多数集めて、強化錬成した。

また、将来を担う若手の動きをみると、県出身の柳（東海大）、平野（大徳大）、古川（PL学園）が、それぞれ関東学生選手権個人優勝・関西学生選手権個人優勝・インターハイ団体優勝と大活躍。全国中学校選抜大会においても、長井（市場中）が齋村賞を受賞。小学校では、小藪（北川小）が全国大会個人優勝と若い芽が着実に育ちつつある。

48国体の成功に向けて、徳島県剣道界が総力をあげてレベルアップを図っていききたい。

### 女子

手塚 十三子  
(瀬尾)

現在、剣道人口で女子の占める割合を、正確には引き出すのは困難ですが、各種大会で女性の参加は著実に、増加の一途を歩んでいることは間違いありません。特に女子高校生の増加は著しく、県下の高校をみても男子部員と女子部員が数の上で肩を並べはじめています。その上、社会人女性剣道の方も盛況で、全国家庭婦人剣道大会も開催され、全国のほとんどの都道府県が代表選手を送りこんでいる有様で、今後は増々盛んになることだろうと思われまます。こうした現状の下で、女性の剣道の在り方を真剣に考える時期がきているとも思います。

ママさん剣士誕生の動機には、「子供の道場通いの付き添いをしているうち、見ているだけでは物足りなくて」「指導者に勧められて」「美容と健康のため」「母と子の共通の話題の場」などさまざまですが、最近はず子供たちと同様にママさん剣士も試合志向型となり、勝った負けたに一喜一憂、その上剣道の本質の理解を外に段位の向上に忙しい状態も見受けられます。

女性には男性と違っていろいろの面で異なり、体力的な制約は勿論、女性の周囲を取り巻く環境や日常生活における役割からも「女性の剣道の在り方」「女性の剣道の特性」といったものが鮮明に理解できます。日常の稽古を通して剣道の本質に触れ、より女性としての特質を磨き、妻として、母としての完成を目指すのが女性の剣道の理想ではないでしょうか。剣道を通して外的にも内面的にも、女性の真の美しさの確立を希いたいものです。

### 大 学

徳島大学 西山伸 二一

昨年、徳島でインカレ（四国大学総合体育大会）が行われました。このインカレを目標に頑張ってきたかいあって、準優勝することができました。ま

た、夏に行われた全国大会の予選でもある中四国大会ではベスト6になり、全日出場まであと一步と迫りました。県下段別選手権では、二段河田(三位)三段西山(二位)の成績を収めました。

九月に幹部交代が行われ、新しいメンバーで十二月の新人戦に臨んだのですが、一回戦で広島工代に敗れました。三・四年の先輩方が退いた今の選手層は薄く、他の大学との差はひじょうに大きいものです。この差をなくするために、稽古に稽古を重ねるしかないと考え、月々木(朝練)、火土(夕練)の練習を熟しています。特に朝練では堀江先生をはじめ、諸先生方、機動隊の方々に熱心に稽古をつけてもらっています。

私たちは剣道をするので、学生時代に残すものの一つでも多く創ってゆきたいと考えています。その目標として、今年の夏に開かれる中四国大会で、先輩方の残して下さったシード権を生かし、悲願の全日出場を果たすべく部員一丸となって頑張り抜こうと意気込んでいます。

## 高 校

川島高校 塩 田 善 治

全日制高校38校、分校・定時制・私立12校が本県高校設置数であり、そのうちの男子39校、女子25校が現在活動をしている。他競技と比較してみると、剣道が最も競技人口が多い。しかし、専門の指導者がいない学校もあり、上位校と下位校との力の差が開いていることは今後の大きな課題といえよう。

公式大会最初の会長杯争奪大会は、優勝男子富岡西高、女子富岡東高、準優勝男子徳島市立、女子川島高であった。県総体では、男子徳島市立が初優勝し、女子は川島高が優勝し、全国総体に出場した。個人では、男子中川(那賀高)笹谷(富岡西高)、女子尾澤(小松島高)長松(川島高)がインターハイに出場し、中川・笹谷両選手が三回戦まで進出した。四国大会では、久方ぶりに富岡東高が三位となり面目を保った。選手権大会では、男子は和田・田中(小松島高)多田(川島高)島田(富岡西高)、女子は林(富岡東高)米倉・小林(川島高)中村(富岡西高)が上位入賞し、特に優勝した和田・林両選手は

共に一年生であり、今後の活躍が期待される。来年度の前哨戦である新人戦は、男子は川島高が初優勝、女子は富岡東高が二回目の優勝を飾った。本年度は、剣道の物心両面にわたる支援により、鳴門武道館での県外招待強化練習、リーダー育成合宿、団体強化合宿、阿南工業高校での県内外合同合宿等を実施したが、まだまだ、県外チームとの力の差があいていると思われる。今後は、強化合宿を重ね、県外との交流を行いながらレベルアップをはかると同時に、国体に向けての県下的な強化指導体制を確立しなければならぬであろう。

## 中 学 校

附属中学校 石 井 博

6月の選手権大会では、男子は代表決定戦にもつれこみ、鴨島一が附属に競い勝ち、女子は阿波が木頭を下した。7月の総体(団体)においては、男子は地力がありながら勝ち運から見離されていた伏兵市場が附属を下し、女子は阿波が市場を下し、順当に優勝した。個人では、男子3年北村(鴨島一)2年長井(市場)1年笠井(鴨島一)、女子折上佳(木頭)が優勝した。四国総体では、男子県對抗優勝、女子県對抗優勝。学校対抗でも、阿波が優勝し本県勢が健闘した。全国大会でも、男子市場・女子阿波とも予選リーグを突破。決勝トーナメントにおいても活躍し、市場は見事ベスト8入りを果たした。

新メンバーになった新人大会では、男子是那賀川と宮浜が大接戦。大将戦までもつれこみ、2対2の本数勝で那賀川が、女子は阿波が那賀川を下し、それぞれ優勝した。現在のところ男子では、那賀川・宮浜が頭一つ抜け出し、それに阿波・城西・木頭・八万・附属・鴨島一・市場・藍住が続き、女子は阿波・那賀川・木頭が抜き出ており、阿南・山川・富田・市場・阿南一・入田・山城がそれに続いている。

48国体に向けて、剣道指導者の増加と資質の向上が急務であるが、昭和60年度は、各種大会や合宿等において、指導者の充実ぶりが徐々にではあるが

感じられるようになった年である。

毎年好チームを育てている中尾(阿波) 富田(宮浜)、強化練習等でも中心となつて指導・世話にあたる樫本(上八方) 中山(文理)、また若手で熱心に指導する富浦(木頭) 岡内(城西) 齋(那賀川)、好選手を多く育てている高島(附属) 谷崎(相生) 岸(宮浜) 吉田(平谷) 喜多(阿南) 塩田(山川)、生活指導を含め生徒の世話をよくする下岡(山城) 藤井(城東) 和田(加茂名) 高橋(富田)、女子の寺西(南部) 住友(阿南) 齋藤(大麻) など、それぞれ地味ではあるが、各学校で着実に武果をあげてきている。そして、村井(新野) 白木(那賀川) など、今は剣道部の顧問ではないが、将来好指導者となりうる人材が控えており、見通しは明るい。

今後は、この流れを大切にし、さらに中学校剣道が充実してくるよう指導者、生徒共に研修していきたい。

## 小学校

### 西部地区少年剣道に付いて

坂本 裕 二

西部地区麻植、美馬、三好、阿波、上板(吉野、土成)の小学生の剣道人口は、別紙の如く、生徒総数一六、三九一名の内九七七名である。約九七名の指導者により、学校の体育館、武道館、警察武道場等、公共施設で行われている。

練習時間は、夜六・七時より二時間程度、週二回が殆どである。練習時間帯が夜であるので、父兄の送迎が必要としている。最近各教室の指導力は強化し、後援団体の組織作りも出来、内容の充溢に力を入れているようである。特に麻植、阿波の教室の実績は顕著である。

全国的に少年剣道の加入者は減退しているようであるが、西部地区に於ても一時のように加速度的増加は見られなく、毎年定着した加入である。然し西部地区の小学生の総数に対比すれば、教室の指導、運営の如何により増加

させる可能性があると思われる。特に三・四年生五、三五一名は六八年徳島国体時の高校生に相当する学年であるので、本人の嗜好、素質、家庭環境等考慮して活躍出来る者を開発し、長期育成し、又この機会に底辺の拡大とレベルの向上を計るべきである。

毎年行っている剣道教室の調査結果を要約すると、  
一、剣道の本質を見定めて試合嗜好型にならないよう指導すること  
一、剣道教室の最大の魅力は子供の躰である  
以上の二点が上げられているので、指導者は心すべきことである。

郡	町	1～6年 生徒総数	教室数 (道場)	指導者 数	剣道 人口	小学 3年生	小学 4年生	
板野郡	吉野町	774	1	4	30	128	145	
"	土成町	816	1	6	30	149	144	
阿波郡	市場町	1,098	1	8	86	175	165	
"	阿波町	1,272	1	8	47	244	212	
麻植郡	鴨島町	2,307	2	12	109	353	364	上浦、鴨島教室
"	川島町	716	1	2	11	105	130	
"	山川町	979	1	3	67	157	159	
美馬郡	脇町	1,697	2	9	120	270	292	研心館、裕武館
"	穴吹町	652	1	4	68	100	105	
"	貞光町	555	1	6	35	94	73	
"	半田町	328	1	3	20	48	49	
"	美馬町	881	1	2	32	112	156	
三好郡	三加茂町	870	1	2	20	131	151	
"	池田町	1,595	4	17	179	250	285	佐馬地、剣正堂 著蔵、小崎
"	三好町	526	1	1	20	98	83	
"	山城町	497	1	4	30	74	84	
"	井川町	419	1	5	37	62	68	
"	三野町	409	1	1	36	70	66	
		16,391	23	97	977	2,620	2,731	

60年度 審査を受けた小学生総数 597名  
合格した数(8級より1級まで) 526名

# 居合

平尾 勝美

剣道と居合は極めて密接な関係にあり、その技法・心法も剣居一体にして「剣道は居合をもって根本となす」と言われております。

昨今居合道を通じて、日本刀の操法の難しさが益々深刻になってきました。斬ること、斬れる刀法の難しさ、刃すじ、手の内の会得の難しさに比べ、突くことは刀の構造上から考えても上手、下手の差が少ない様に思えます。刀は突く道具としての性能は抜群なものがありますが、確かに十分に突く為にはやはり手の内の作用が重要であることは言うまでもありません。突くことは刀の性能の自然的発揮であり、従って突業を十分修得し、確かな突業を身体で覚えることが大切であります。「全剣連制定居合十本中五本までも突業が組みこまれていることも其の故でなからうか。」

次に斬ることではありますが、左右の手の力関係、右は右なり、左手は左なりに指の力の働き、又その力の配分、そしてそれらを何時作用させるかということが斬りを左右することでしょう。

居合道修練の奥深さがここにある様に思えます。如何に合理的に刀を運用するかを考え、その刀勢を以て相手に立ち向かい、又相手の攻めに対応する技法、心法を修練する事が最も大切でしょう。

六十年度は県下段別選手権大会を皮切りに、大阪八重垣会主催の大会、夏には香川居合道大会、宇和島居合道大会、秋には高知居合道大会、国分市に於ける全国講習会、勝浦市に於ける指導者講習会、一年を締めくくる大阪居合道大会と、毎年恒例の諸行事が開催され、大々同行の士と共に参加し修業させて頂きました。

最後になりましたが、武道館に於ける稽古も毎週月曜日午後七時より熱心に行われて居ります。皆様の御参加をお待ちして居ります。



# 全国大会に参加して

## 第34回全日本都道府県対抗剣道大会

那賀高校 佐々木 和人

徳島県の剣道レベルも年々高くなり、全国大会でも、すばらしい成績を上げられています。今年の都道府県大会においても、ぜひ入賞しようと、大会にのぞみました。

対戦相手は、昨年は熊本県、今年は、愛知県と大阪府の勝者というように、徳島県は、初戦で強豪に対戦することが多いようです。一回戦の愛知対大阪は、大阪が圧勝し、徳島の初戦は、大阪と決定しました。地元大阪のすごい応援の中、全員、気合十分でのぞんだのですが、接戦の末、あと一歩およびませんでした。さすがに、大阪は実力十分でしたが、決して勝てない相手だとは思いませんでした。ただ、大阪チームは、徳島に比べて、試合運びがうまいという感じがしました。徳島チームも、稽古はよくできているのですが、試合となると半年以上も遠ざかっている選手がほとんどです。試合練習を充分やっつて、勝負のかけひき、有効打突の感じをつかむことも大切ではないかと思えます。しかし、なんといつても、試合での精神的な重圧をはねとばすような、本当につめた稽古が必要だとつくづく感じました。また、全国大会に参加させていただいた機会に、もっともっと見取り稽古をしてくればよかったと反省し、これからも、ますます努力精進したいと考えています。

## 第24回全日本女子剣道選手権大会

南部中学校 寺 西 佳代子

全国の強豪選手が集まり、今年も初戦から熱戦がくりひろげられました。女子の大会ではメインといえる本大会に出場することは、私の念願であり、と同時に県を代表してということで、強い緊張感と責任感に包まれて試合に臨みました。試合での調子は、さほど良くなかったのですが、こういった精神面に支えられ、苦戦ながらもベスト8入りを果たすことができました。準々決勝では、筑波大学の後輩であり、前年度女子学生チャンピオンの藤田弘美選手との対戦になり、気迫のこもった技と、十分の練習量をふんだという彼女の自信の前に、あっけなく二本負けにおわってしまい、力量の差を痛感しました。その彼女も決勝では、中京大の三谷選手に逆転負けをしてしまい、実力よりも、気持ち一つが勝負の分かれ目であり、「気剣体一致」の難しさも感じました。

ベスト8までの顔ぶれを見ると、その中で社会人選手はたった二人で、学生現役を離れての剣道は、非常に難しいものだと思いますが、自分から時間をみつけて、さらに練習を重ねて精進し、現役選手に負けないよう頑張っていきたいと、強い決意を覚えます。

## 第40回国民体育大会剣道競技(成年)

徳島文理大学 下 村 富 夫

首題の大会に参加できて非常に光栄に思っている。成績は既にご承知の通り二回戦で、優勝した埼玉県チームに善戦しながら敗れた。四十八回国体が、徳島・香川両県で開催され、剣道競技が本県で実施と決定しておるので試合の反省と、鳥取団体の運営上の管見を述べて、来るべき大会の参考に供したい。

一、試合の反省 埼玉は檜崎範士監督の下、精銳をもって上位、又は優勝を目標にしていたようである。お会いして始めての言葉が「徳島はいい選手を

集めておるね」と、本県の選手は埼玉に目にも見せて呉れるとの意気があった。先鋒吉田よく戦い一本勝ち、次鋒、中堅と一本先取して埼玉をびびらせたが後が続かず敗退、私自身も先取しながら引き分けた。私を含めて全員が勝機を得ていながらそれをものにできなかったのは誠に残念であった。これは本県の今までの各種全国大会・四国大会等における試合に対する甘さであろうと思う。相手にくらくらいついてでも勝つという勝負にかける執念が大切である。今後はこの根性を養成しなければと痛感した。

二、運営上について 恐らく八年後に本県で剣道競技は行わねばならぬと予想をしていたので、気を付けて観た。本県と同じ貧乏県の鳥取の役員は、一生懸命に奉仕しながら実に肩身のせまい思いの大会であったらうと、衷心よりお気の毒に思った。今まで十数回の大会に出場したが将に最低であった。会場の施設、運営、選手に対するサービス等すべて田舎者といわれるようなやり方で洗練されていない。宿泊についても同様であった。小さい鳥取市に多くの競技をかかえてのことなので狭いなどの事は辛抱しなければならぬが、それを補う誠心が欲しかった。選手に対する人間関係がつかれて冷え切ったという感がした。市民全体にもそのような感じがした。国民の体育大会という感じが湧いて来なかった。ただ開閉会式が行われた中央の競技場の周辺や、そこに通ずる道路の整備は、よくもこのように立派にできたものだと感心した。それだけに剣道会場が淋しく感ぜられた。

四十八国体の剣道会場がどこの市町村になるかわからないが、第一に今までの本県剣道の反省を基にして強化し、優勝すること。第二に市町村民挙げて協力し誠心をもって選手を迎える心構えを養う。第三に主管となる本県剣道連盟の火の丸となつての団結と大会運営。第四に会場周辺及び交通・宿泊施設等についての細い配慮。第五に一日も早い態勢づくり、しっかりした国体剣道競技の土台をつくること。

以上思いつくまま、感じたまま、見たままを記しました。

## 第40回国民体育大会剣道競技(少年)

富岡西高等学校 笹谷 誠志

「明日へ向かつてはばたこう」をスローガンに昨年十月、鳥取県でわかり国体が開催された。盛大な開会式に感動した私達は、徳島代表なんだというのを再確認し、必勝を誓い合った。対するは群馬である。しかし勝負は副将が一矢を報いたのみでなすすべなく敗れた。敗因はチームの奮闘気を盛り上げることもできず完敗した自分にあった。

私自身二度目の国体であった。前年も負けている。県代表の役割を果たすことができず負けることに反省しきりである。自分は大試合になると力を出し切ることができない。どうしても緊張して十分体が動かさず、相手に勝つどころか、自分の弱い心に負けているのだ。稽古は自分なりに必死でやったりもりだった。いつもの力さえ出れば、と願いながら向かったが、今回も駄目であった。負けて情けない自分だ、と考えているとふと監督の沢井先生の話思い出した。「日本人は幼い時から箸を使うが大人になってもこぼすことがある。それはいくら回数が多くても漠然と繰り返しているからだ。自分の剣道もそうだったのかもしれない、と思った。苦しい思いさえすればそれで充実した練習だったと思っていた毎日だった。剣道は本来斬り合ひであり、負けたら死ぬ。それを念頭に置き、もつともつと「真剣」にやるべきだったのだろう。それが技術、精神向上や大試合に勝つ秘訣だと思う。これからのこの負けの悔しさを忘れず、「真剣」に稽古を積み、特に精神を鍛えていこうと思う。

## 第2回全国家庭婦人剣道大会に参加して

藍住婦人剣道部 萬藤 保子

ちょうど半年前、第二回全国家庭婦人剣道大会に参加させていただきました。

日ごろ、子どもたちを応援しているお母さん方が、今日は子どもたちに

応援されて、頑張ってください。

と、主催者側の方から、おこぼをいただきました。

が、田舎からきよろきよろしながらできてきたお母さん剣士は今回も一回戦で引き返さざるをえませんでした。

でも、こうして参加させていただいたことは、いろんな意味で教えられたことが多く、幸せだったと思います。

五年かかって、十年かかってもいいではありませんか、いつかは、一回戦を抜け出し、二回戦をめざしましょう。

女子部長のねぎらいのことはをよりどころに、打たれても打たれてもぶつつかっていく、そういう気持ちを忘れないようにしたいと思いつつ……試合のあとは、登校拒否児のごとく、シーズンオフとして通してしまおう私です。

けれど、庭の老木の紅梅の蕾が目につきはじめると、さそわれるように、武道館に足を運びだします。

剣の道にはとても遠いところにいる私ですが、離れてしまえない何かを、すこしずつ教えられてきたようです。

## 第7回日本高令者武道大会

剣道連盟審議員 西野 四郎

第七回全日本高令者武道大会が日本武道館に於て六月七日に開催され、全国から参加者、剣道・四三三名、銃剣道・二〇五名、なぎなた・九六名、昨年より一三〇名増の七三三名の参加があり盛大に開催されました。本県から剣道A組（七〇以上）に、清原、一村、平岡、中川の四先生、B組（六五以上）に山田富、勝浦、高橋、西野の四先生、C組（六〇才以上）に山田仁先生、以上九名が参加されました。開会式後直ちに演武にうつり、

演武一 日本剣道形、銃剣道基本、なぎなた基本

演武二 試合は剣道七コート・銃剣道三コート・なぎなた二コートで実施されました。

演武三 昼食時間を利用して、熊本県代表の小刀流中西派刃引之形、八〇才以上の紅白試合、異種試合（剣道対銃剣道・剣道対なぎなた）が各

三組披露されました。

各演武共高令者とも思えない迫力のある立派な試合が展開され盛會裡に終了しました。本県の出場者は昨年の様な輝かしい成績をあげる事が出来なかつたが、平岡先生が五回戦に進まれた事がせめてもの慰めであった。第八回の大会は、八六年六月九日ですが我々高令者にとって年一回の然も晴れの日本武道館に於て自分の実力を知る為にも大変意義深いものがあるうかと思えますので多数のご参加を心からお待ちして居ります。

以上

## 第15回全国中学校選抜剣道大会

市場中学校 山田 真也

三年の夏、僕達は、北の大地北海道砂川市にて、全国中学校選抜剣道大会に出場しました。この北の大地を踏みしめた時、遂に来たんだと思いました。また、それと同時に、「やるぞ」という気持ちが湧いてきました。

しかし、ここまで来るのには、いろんな苦労がありました。毎日毎日、練習ばかりで、剣道が嫌になった時が何度かありました。けれど、全国大会出場が決った時は、剣道をやった本当によかったと思いました。

試合では、みんな、日頃の練習の成果を十二分に発揮し、自分達の力以上のものが出ました。それは、多くの激励電報を読んで、一段と闘志を燃やし、そして、全員が一致団結して勝負に挑んだ結果だと思えます。試合内容は、いずれのチームも各県代表だけあって、どの試合も紙一重の勝負でした。その中でベスト8に残れたことは、本当に嬉しかったです。

これで、今まで教えて下さった先生方、また、いろいろお世話して下さいましたご父兄のみな様方に、なによりの恩返しができたと思えます。

期間中の三泊四日の間、本県に先祖を持たれる野々宮様宅で大変お世話になりました。北の大地での熱い人情は、生涯忘れることは出来ないと思えます。

これからは、これらの体験を生かして、より一層がんばっていききたいと思えます。

## 全日本少年武道練成大会に参加して

河南少年剣道教室 小西 伸

七月二十八日、午前八時、日本武道館に着いた。

すでに全国から集まった、多数の剣道仲間がいた。

昨年から、予戦リーグで基本（切り返し、打ちこみ）の判定があり、それに勝ちぬかなければ、試合に参加できない規定になっている。それで剣道を習い始めたころに戻って、僕たちは切り返しの練習を一生けんめいした。その甲斐あって、不安だった予戦リーグは、二チームともに5-0で勝った。

試合に出ることができる。僕はうれしかった。あとは、力いっぱい戦うだけだ。熊本県の隈小に5-0で兵庫県の生田えびら会に2-0で、茨城県の水海道に2-0で勝ち、いよいよ決勝戦になった。相手は、岡山県の金光剣道少年団だ。みんな、一生けんめい頑張ったけれど2-1で負けてしまった。しかし、悔いはない。

一年生から剣道を始めて、この大会に参加し、優勝はできなかったけれど決勝戦までいけたこと、一度はでたかった武道館での試合ができたこと、この大会のために、先生と僕達が一団になり、汗を流し頑張ったことは僕の六年間のうちで一番いい思い出になりました。来年は、僕達の後輩に頑張ってもらって、ぜったい優勝旗をもって帰ってきてもらいたいです。

## 第三回全日本小・中学生

### 女子個人選抜剣道錬成大会

北川小学校 小 筱 香

十月二十日、全国大会の当日です。

起床六時、朝食六時三十分。とても早く起こされたので、まだまだだぬむむい気持ちで朝食をとりました。七時四十分にはタクシーに乗り、八時過ぎに会場に着きました。それから、徳島の人たちと練習しました。わたしは、その

時「北川のみんなもがんばっているだろうな」と木頭村で行われている丹生谷剣道大会のことを考えていました。

試合になると、お父さんが「気合入れて、かかっていけよ。」と力づけてくれました。私は、「やるぞ!」という気持ちになりました。一回戦は、小手で一本勝ちでした。さすが全国大会に出るだけあって、相手が強く感じられました。二回戦、三回戦とうまく勝ち進みました。準決勝のときは、なかなか一本が決まらず、延長戦の末、面をとり勝つことができました。決勝戦は、思ったより楽に二本とれ、優勝することができました。

私は、閉会式まで、ワクワクしながら待ちました。カメラで写されたり、インタビューされたりしたので、とても緊張してはすかしくなりました。

北川に帰ると、剣道部のみんなが大歓迎してくれ、とてもうれしかったです。そして、胴上げされているとき、「優勝したんだなあ。」とうれしさがこみあげてきました。

これからも、剣道にはげんでゆきたいと思います。

## 第20回全日本居合道大会

高橋 憲 司

第20回大会が、今年には沖繩県沖繩市において開催され、41都道府県から五六・七の各段の代表選手が参加して、南国の地において熱戦が展開されたものである。

本県代表として、七段に平尾勝美教士、六段に高橋憲司錬士、五段には青山善雄選手が参加したものである。

本大会の試合方式について、事前に中央の剣道連盟の専門部会で色々と討議がされたようであったが、前年度の試合形式をそのまま踏襲した形で実施される事になり、指定技の制定居合三本は各回戦毎に指定が変更され、合せて古流二本の計五本によって、心・技が競われたものである。

注目の各段選手権の決勝戦は、七段は河口選手（山口）と波止選手（福岡）、六段は地元の仲井間選手と前年優勝者の中垣選手（山口）、五段は甲斐選手（宮崎）と波名喜選手（沖繩）の対戦となり、七段では河口選手、六段は仲

井間選手、五段は甲斐選手が、各段の優勝を飾ったものである。

都道府県対抗優勝試合の成績は、地元沖繩県が旗一本の僅少差で二位山口県を押えて優勝し、三位は東京都であった。

本県勢は、七段・平尾選手は初戦に関東の強豪、高山選手と対戦して惜敗し、六段・高橋選手は一回戦不戦勝の後、二回戦で松岡選手に2対1で勝ったが、三回戦で対戦した大群選手（熊本）に2対1で敗れ、五段・青山選手は一回戦不戦勝であったが、二回戦で田中選手（広島）に敗れて今年度の成績は振わなかったものである。

常に上位に進出している各県にあっては、日頃の練習においても亦その取り組み方にも種々の工夫を重ねており、その事を再認識して、今後さらに努力をしなくてはとの決意を新たにしたい今大会参加であったものである。

※県外で活躍中の徳島県出身選手から

## 第33回全日本学生剣道選手権大会

大阪体育大学 平野 誠 司

学生剣道もいよいよ最後となった今年度の七月七日、大阪市中央体育館で、第33回全日本学生剣道選手権大会が開催された。

この大会には、各地区で予戦し、選出された一三六人が集まった。私は、この大会の予戦である関西学生剣道選手権大会に一年の時から出していたが、チャンスをものにすることがなかなかできなかった。三年生の時に、初めて全日本に出場することができたが、一回戦敗退という無惨な結果であった。しかし今年度は、この関西大会で優勝を果たし、全日本に向ける闘志は最後にきて最高潮となっていた。

この大会でのコンディションは良い方ではなかったが、気持ちだけは、あきらめず、最後まで勝負を捨てなかった。その甲斐あって、気が付くとベスト4まで勝ち進んでいた。準決勝の相手は、昨年の全日本の一回戦で対戦した中央大の中山選手である。打つ手もなく敗れた相手だけに、今まで保ち続けた勝負心が微妙に変った。一本勝負のつもりで慎重に戦ってきたがこの

一戦だけは、無理に勝負をしかけていき、そこを上から合わされてしまった。結局一本負けで、三位になったわけである。

最後の個人戦を優勝で飾ることはできなかったが、学生剣道でできなかった分、警察剣道で全日本が取れるように、修練したいものである。

## 第31回関東学生剣道選手権大会

に参加して

東海大学 榊 悌 宏

「ただ今より優勝戦を行います。赤、青山学院大学・橋本忠則選手……。」

白、東海大学・榊悌宏選手……。」日本武道館で開催されたこの大会は、78大学から49名が参加。私は決勝までに8試合を勝ち抜いてきた。東海大学体育学部武道学科に在学し、剣道を専門的に学んできた私は、専門の先生に学んでいるのだから一般学科の学生に負けてはならない、一生けんめいがんばれば勝てると思った。試合は一对一のまま進められ、延長三回、ついに気迫のメンが相手の頭上をとらえることができた。

私がこの度、優勝することができたのは、授業と部活動両面よりの豊富な稽古量と優れた多数の指導者に恵まれたこと、そして絶えず工夫研究を積み重ねてきた努力の成果だと思ふ。

10名の部員の中で、私は常に集中して気を抜いた稽古をしないこと、基本を忠実に正しい剣道を身につけることを目標としてきた。近年、勝負にこだわりの、剣道本来の姿が損なわれつつあるといわれるが、専門学科の学生として模範となる剣道を身につけたいと思う。また精神修養も怠ってはならないと思ふ。

私は中学卒業後、故郷徳島を離れ東海大相模高校へ進学した。ここでは礼儀・忍耐力を学び、鳴門第一中では吉田輝昭先生にやる気・やれば出来るという信念、幼少時には西寺慶裕先生に剣道を好きにさせていただいた。こうした先生方のご恩に報いるためにも、これで満足せず、常に修練するつもりである。

## 第32回全国高等学校剣道大会

に出場して

第8回日本剣道少年団研修会体験・実践発表（最優秀賞）

『剣道を通じて学んだこと』

PL学園高等学校 古川 久美子

徳島県光武館剣道少年団中学一年生

吉本義弘

徳島県鳴門市大津町徳長字榎が江の越六七

今年のインターハイは、石川県で行われ、剣道の試合は、羽咋市でありました。大会三日前に石川へ着き、北陸はすずしいのではと思っていましたが、むし暑い毎日でした。気候になれるよう川上監督の指導のもとで選手は、午前午後にわたって練習しました。

いよいよ大会がはじまり、今までの練習の成果を精一杯出して、悔いの残らないように、また、自分のポジション先鋒の役割りを果たせるよう心掛けました。大会前、足を痛めて自分に甘えてしまい、監督より、「白業自得だ」という注意を頂いた事があって、PLの代表として精一杯やろうと思っていました。予選リーグでは、間合のかけひき、足さばきがうまく出来ず、あぶない試合があったのですが、決勝トーナメントに入り、予選リーグでの試合をくり返さないよう、とにかくもう「相手は自分より強いんだ、なめてはいけない」という思いで全力で当たり、夢中で声を出していたように思います。決勝も、PLの教えを遂断って監督の顔を見て試合にのぞみました。必死だっただけに、優勝が決まった瞬間、胸からこみあげてくるものがあり、口ではいい表せないほど感動しました。この大会で得た物は、大きくいい思い出にもなりました。大きなお恵を頂いたのだと思います。しかし忘れてはいけない事は、自分一人で得たのではなくいろいろな人のおかげによるものであることです。あと一年しかないのです。川上監督の指導のもとで、もっともつと修行させていただきたいと思っています。ほんといい夏でした。

編集部注

平野選手 鳴門一中↓鳴門高↓大体大

榊選手 鳴門一中↓東海大相模高↓東海大

古川選手 阿波中↓PL学園

「エライヤツチャ。エライヤツチャ。ヨイヨイヨイ。」皆さんは徳島の名物阿波踊りをご存じですか。そして、「すだち連」という車椅子の踊り連をご存じでしょうか。「すだち連」というのは、鳴門市の身体障害者の人達で作っている、阿波踊り連のことです。僕は昨年、その人達の車椅子を押して阿波踊りに参加しましたが、その時の体験を發表致します。

僕は幼稚園の頃から剣道を習っています。動機は、担任の先生のご主人が光武館道場の先生であった関係で、体の小さい僕を心配して剣道を習うようにとすすめてくださったからです。

将来体が小さい為を受けるハンディも、何か特技を身につけることによって自信がなくて乗り越えようと、先生は考えて僕に剣道をすすめてくれたものです。

光武館道場では、毎年十二月の終り頃に、鳴門市老人ホームへ慰問に行きます。身寄りのない老人や、身寄りがあっても一緒に暮せない人など色々な事情のある人たちが集団で生活をしています。寒風をつつ切って自転車でかけた僕たちを「待つとったよ」「また来てくれたんか」と言つてニコニコしながら出迎えてくれる老人を見て、僕は「来てよかった」といつも心に感じます。とりたててすることはありませんが、肩をもんだり、話しをしたりします。そして老人ホームの庭で剣道の野試合をします。「又来年も来るわな」と約束して帰りますが、その時の嬉しそうな老人の皺だらけの顔を忘れる事はできません。道場では又、アフリカ難民救済のために古切手集めもしています。同じ地球上に住む人間同士です。もっともつと救いの手をさしのべなければならぬと思います。

こうした幼い頃から身についた光武館道場でのボランティア精神が僕を「すだち連」の車椅子押しにと、かりたてたのだと思います。

始めは好奇心もあって、一度は押ししてみたいなア位の軽い気持ちで参加しましたが、実際に車椅子を押しみて、そのむずかしい、ことに気付きました。まっすぐに進まない、まっすぐにしようとする、よけい曲ったり後ろの人とぶつかったりします。前後の間隔がうまく取れなくて注意もされました。僕は必死で汗びっしょりになって車椅子をつかまえていました。

ふと、車椅子の人を見ると、とても楽しそうです。明るい電光に照らされた顔は生き生きと輝いています。手は鉦や太鼓に合わせてヒラヒラと踊っているのではありませんか。その姿を見て僕は、障害をもっている人たちも僕たちと同じように色々な事をしてみたいと願っているのだなあと思いました。そして、その一生懸命な姿に打たれ、反対に僕の方が勇気づけられたものでした。すると急に車椅子が軽くなったような気持ちになり、僕の足は阿波踊りのリズムに乗って踊るようにして車椅子を押ししていました。

車椅子を押すという事は、押す人押される人の呼吸が一体になること、つまり僕が相手の人の気持ちになって行動しなければならぬのだと気付いたものです。阿波踊りが終って、「ありがとうご苦労さん」と言われた時、僕はこのような小さな力でも役に立ったのだ、人に喜んでもらえたのだという実感がわいて来てあたたかい気持ちになりました。

「手や足が痛かったでしょう」と聞かれたので僕は「平気です。剣道で鍛えていますから」と胸をはって答えました。そうだ、この人達は剣道がしたくてもできない体なのだとか心から気の毒に思うと同時に五体満足で剣道のできる幸せをしみじみとかみしめました。

ささやかなことですが今年も、来年も「すだち連」の車椅子を押しして阿波踊りに参加しようと思っています。剣道は活人剣、即ち人を生かす剣道でなければいけないと、いわれています。体の不自由な身体障害者の人達でも何かを求めて頑張っています。あの阿波踊りでの身体障害者の方々の勇氣ある、さわやかな顔はわすれる事はできません。

勉強します。剣道します。良い行いをします。光武館道場の教えます。

僕は、これからも剣道を生涯の友として社会に役立つ立派な人間になる事を誓いたいと思います。



# 昭和60年度 戦いの跡

## 【県内】

### ◆第8回県居合道段別選手権大会

(4月7日 徳農体)

▽初段 ①吉田正雄(日和佐) ②弘光正憲(日和佐) ③一宮和雄(徹心道場)▽二段 ①斉藤吉明(研心館) ②鈴江正雄(徹心道場) ③石山弘志(市場)▽三段 ①中山繁輝(徹心道場) ②岡田育幸(徹心道場) ③新居高行(徹心道場)▽四段 ①吉岡修一(徹心道場) ②岸田光博(徹心道場) ③岸田光博(徹心道場) ④西山光次(徹心道場)▽五段 ①青山善雄(錬心館) ②清積秀一(徹心道場)▽六段 ①高橋憲司(錬心館)

### ◆第10回三木杯高校剣道大会

(4月21日 徳農体)

【男子】  
▽1回戦 阿南工3-2 徳島農、徳島市立5-0 海南、城ノ内4-1 日和佐、池田4-1 鳴門商、貞光工3-2 城東、城南5-0 阿波商、新野3-2 鳴門工、城北4-1 徳島工、

鳴門3-2 富岡東、富岡西4-1 徳島商、那賀5-0 美馬商、小松島5-0 徳島東工、生光学園4-1 穴喰商  
▽2回戦 川島4-1 阿南工、徳島市立5-0 城ノ内、池田3-2 貞光工、新野3-2 城南、脇町3-2 城北、富岡西4-1 鳴門、那賀3-0 小松島、阿波5-0 生光学園  
▽準々決勝 徳島市立5-0 川島、新野4-1 池田、富岡西5-0 脇町、那賀3-2 阿波  
▽準決勝 徳島市立3-2 新野、富岡西3-2 那賀  
▽3位決定戦 那賀3-2 新野  
▽決勝 富岡西4-1 徳島市立、笹谷1-0 吉田、○松本ドメーメ 福永、○湯浅メコメコ 井村、○板東反コメ 広瀬、○井利元メメメ 村馬

【女子】  
▽1回戦 那賀3-2 城南、川島5-0 城ノ内、小松島3-2 日和佐、鳴門商3-2 脇町、▽2回戦 名西4-1 那賀、海南3-2 城東、鳴門4-1 阿波、川島3-2 富岡西、富岡東3-2 小松島、池田3-2 徳島商、徳島市立3-2 生光学園、鳴門商4-0 穴喰商、▽準々決勝 名西4-1 海南、川島3-2 鳴門、富岡東5-0 池田、徳島市立3-2 鳴門商  
▽準決勝 川島4-0 名西、富岡東3-1 徳島市立  
▽3位決定戦 徳島市立4-1 名西  
▽決勝 富岡東3-2 川島、○岡崎ドメーメ 米倉、○国見メド反 福原、○北田反コメ 宮本、○前近藤メコメ 住友、○近藤メコメ 長松

### ◆第16回県下中学・高校武道大会

(5月12日 徳武)

【中学校】  
▽団体 ①嶋島一 ②那賀川 ③付属 ③相生  
【高校】  
▽男子団体 ①徳島市立 ②那賀 ③川島 ③小松島

▽女子団体 ①富岡東 ②鳴門商

### ◆昭和60年度管内矯正職員武道大会

(5月17日 徳刑武)

徳島刑務所 ② 高松刑務所  
徳島刑務所 ③ 松山刑務所  
徳島刑務所 ① 高知刑務所

優勝 徳島刑務所  
二位 高松刑務所  
三位 松山刑務所

敢闘賞 森直行(徳島刑務所)  
この結果、徳島刑務所が全国大会に出場。

### ◆第25回県高校総体剣道競技

(6月1日・2日・3日 徳農体)

#### 第1日目

【男子】1回戦  
阿波4-1 板野 東工4-1 阿北  
鳴工4-1 水産 海南3-2 松西  
神山3-2 阿商 阿工3-1 鳴門  
池田4-0 日高  
▽2回戦  
富西5-0 鴨商 阿波5-0 美馬  
徳商4-1 東工 川島4-1 徳農  
新野3-2 城東 鳴工3-0 貞工  
海南4-1 鳴商 那賀3-2 富東  
松高2-2 城南 本数勝ち  
城内5-0 神山 阿工5-0 辻  
城北4-1 徳工 脇町5-0 穴喰

池田 2-2 三好 本数勝ち  
宍喰 (不戦勝ち) 名西  
市立 5-0 生光

【女子】 1 回戦

穴吹 2-2 徳商 代表戦勝ち  
海南 3-2 脇町 鳴門 4-1 城東  
生光 5-0 阿商 日高 3-1 富西  
城内 5-0 徳工 松高 3-2 阿波  
城南 3-2 那賀 宍喰 2-2 徳農  
代表戦勝ち

▽2 回戦

川島 5-0 穴吹 鳴門 5-0 海南  
生光 3-1 名西 日高 3-2 鳴商  
富東 5-0 城内 松高 3-2 辻  
池田 4-1 城南 市立 5-0 宍喰

第2日目

【男子】 3 回戦

富西 5-0 阿波 川島 4-1 徳商  
鳴工 3-2 新野 那賀 5-0 海南  
松高 4-1 城内 阿工 4-0 城北  
脇町 4-1 池田 市立 5-0 宍喰

▽準々決勝

川島 4-0 富西 那賀 3-2 鳴工  
松高 4-1 阿工 市立 4-1 脇町

【女子】 準々決勝

川島 4-0 鳴門 日高 4-1 生光  
富東 4-0 松高 市立 3-1 池田

【男子個人】 準々決勝進出者

吉田、広瀬 (以上市立) 笹谷、井利  
元 (以上富西) 中川 (那賀) 多田

(徳商) 山下 (松高) 新宮 (鳴門)

【女子個人】 準々決勝進出者

(長松、福原 (以上川島) 有賀 (富西)  
坂口、尾沢 (松西) 中津 (鳴商) 大  
西 (市立) 谷口 (日高)

第3日目

【男子】 決勝リーグ

市立 4-1 川島 松高 3-2 那賀  
松高 4-1 川島 市立 3-1 那賀  
市立 3-2 松高 那賀 4-1 川島

▽順位 ①市立 3 勝 ②松高 2 勝

1 敗 ③那賀 1 勝 2 敗 ④川島 3 敗

【女子】 決勝リーグ

日高 2-2 市立 本数勝ち  
富東 3-1 日高 川島 4-0 市立  
富東 2-2 川島 引き分け  
川島 4-1 日高 富東 4-1 市立

▽順位 ①川島 2 勝 1 分け ②富

東 2 勝 1 分け ③日高 1 勝 2 敗 ④

市立 3 敗 1、2 位は勝者数による

【男子個人】 決勝リーグ

①中川 (那賀) 3 勝 ②笹谷 (富西)  
2 勝 1 敗 ③吉田 (市立) 1 勝 2 敗  
④広瀬 (市立) 3 敗

【女子個人】 決勝リーグ

①尾沢 (松高) 2 勝 1 敗 ②長松 (川  
島) 2 勝 1 敗 ③福原 (川島) 2 勝  
1 敗 ④坂口 (松高) 3 敗 1、2、

3 位は順位決定リーグ戦による

◆第14回県中学校剣道選手権大会

(6月16日附属中)

【男子】 1 回戦

川内 3-2 板野、阿南 1-3 1 立江、  
八万 3-0 小松島、入田 4-1 半田、  
川島 3-2 徳島、坂野 4-0 江原、  
山川 2-1 加茂名、城西 5-0 池田、  
城東 4-1 大麻、文理 3-2 松茂、  
鳴門 2-2 1 脇町、富田 4-0 勝浦、  
国府 3-2 山城、羽浦 4-0 応神、  
牟岐 3-2 南部、石井 3-2 北島、  
北井上 1 (本数勝ち) 1 貞光、高浦  
3-1 穴吹、鳴門 1-4 1 津田、木  
頭 4-0 西祖谷、平谷 3-2 日和佐、  
新野 2 (本数勝ち) 2 上八万

▽2 回戦

鴨島 5-0 川内、八  
万 3-1 阿南、阿波 5-0 入田、  
相生 3-2 川島、鷲敷 4-0 坂野、  
城西 4-0 山川、城東 3-2 文理、  
阿南 4-1 鳴門、那賀 3-1 富  
田、羽浦 5-0 国府、藍住 3-0 牟  
岐、付属 5-0 石井、宮浜 5-0 北  
井上、鳴門 1-3 2 高浦、木頭 5  
0 平谷、市場 5-0 新野

▽3 回戦

鴨島 4-1 八万、阿  
波 3-0 相生、鷲敷 2 (本数勝ち)  
2 城西、阿南 4-1 城東、那賀 川 5  
0 羽浦、付属 5-0 藍住、宮浜 4  
1 鳴門、木頭 3-2 市場

▽準々決勝

鴨島 1-2 1 阿波、  
阿南 3-2 鷲敷、付属 1-0 那賀川、  
木頭 4-0 宮浜

▽準決勝

鴨島 1-5 0 阿  
南 付属 3-2 木  
頭

▽決勝

鴨島 1-1 1 付  
属 (代表戦勝ち)

木頭 4-0 宮浜

▽準決勝

鴨島 1-5 0 阿  
南 付属 3-2 木  
頭

▽決勝

鴨島 1-1 1 付  
属 (代表戦勝ち)

北川

○大島

植木

横田

北村

▽代表戦

北村

角元

【女子】 1 回戦

川島 4-1 加茂名、阿南 1 (不戦勝)  
鳴門 2、城東 5-0 牟岐、北島 3-  
2 山川、山城 2 (本数勝ち) 2 南部、  
津田 3-2 日和佐、富田 3-2 脇町、  
石井 3-0 穴吹、付属 (不戦勝) 貞  
光、阿南 5-0 八万、鴨島 1-4 1  
川内、入田 5-0 江原

▽2 回戦

木頭 5-0 川島、城東  
3-1 阿南、山城 2 (代表戦勝ち)  
2 北島、市場 4-1 津田、那賀 川 5  
0 富田、石井 4-1 付属、阿南 5  
0 鴨島、阿波 5-0 入田

▽準々決勝

木頭 4-0 城東、市  
場 4-1 山城、那賀 川 4-1 石井、  
阿波 5-0 阿南

▽準決勝

阿波 5-0 阿南

木頭 3 | 1 市場  
 阿波 3 | 1 那賀川  
 △決勝  
 阿波 4 | 1 木頭  
 ○米倉 メ | 西  
 ○芝橋 メコ | 小藪  
 ○川人 メメ | 西岡  
 工藤 | コ 折上恭  
 ○齋藤 下 | 折上佳

○山田 メ 角元  
 市場は初優勝。  
 【女子】1回戦  
 脇町 2 | 1 石井、南部 2 | 1 北島、  
 山川 2 | 0 三好、市場 3 | 0 鳴門一、  
 入田 2 | 1 阿南、富田 2 | 1 山城、  
 木頭 3 | 0 日和佐  
 △2回戦 阿波 3 | 0 脇町、南部  
 2 | 1 山川、市場 3 | 0 入田、木頭  
 2 | 1 富田  
 △準決勝 阿波 3 | 0 南部、市場  
 2 | 0 木頭  
 △決勝  
 阿波 2 | 1 市場  
 ○米倉 下 | 近藤  
 川人 | メメ 井内○  
 ○工藤 メ | 楠  
 阿波は3年連続4度目の優勝。  
 【男子個人】1年 準決勝  
 吉田 コメ | メ 藤本  
 (阿波) (鳴門二)  
 笠井 コ | 谷沢  
 (鴨島一) (木沢)  
 △3位決定戦  
 谷沢 メ | 藤本

長井 メメ 佐野  
 (市場) (那賀川)  
 △3位決定戦  
 佐野 メメ | 大島  
 △決勝  
 長井 下 | 武知  
 【三年】準決勝  
 北村 メコ | コ 塩田  
 (鴨島一) (付属)  
 本田 下 | 山田  
 (相生) (市場)  
 △3位決定戦  
 山田 メメ | メ 塩田  
 △決勝  
 北村 メメ | 本田  
 【女子個人】準決勝  
 折上恭 下 | 工藤  
 (木頭) (阿波)  
 折上佳 メメ | (木頭)  
 △3位決定戦  
 工藤 メメ | 西  
 △決勝  
 折上佳 下 | 折上恭

○吉田 彰 ココ | 熊沢  
 ○武岡 メド | 西宇  
 ○山下 メメ | 鈴木  
 ○四宮 メメ | 森  
 ○武市 コメ | 元木  
 ○吉田昌 ココ | 竹村  
 ○近藤 メコ | 吉永  
 ○米倉 メコ | 松村  
 ○那倉 メメ | 来代  
 ○藤本 メメ | 杉本  
 ○真野 | メコ 北條○  
 美馬 コ | メコ 中村○  
 ○中尾 メコ | 柏原  
 ○岡本 メコ | 谷本

教員 11 | 5 実業団  
 ○田村 コメ | コ 仁木  
 ○佐々木 メコ | 吹井  
 ○白木 コメ | 吹田  
 ○富浦 ココ | 熊沢  
 ○福多 コメ | 西宇  
 ○本田 コ | コ 鈴木○  
 ○柴田 | コ 森○  
 ○加藤 コメ | コ 竹村  
 ○河田 コメ | 吉永  
 ○榎本 メド | 松村  
 ○坂本 メ | コ 来代○  
 ○一谷 コ | コ 杉本○  
 ○西谷 メコ | コ 北條○  
 ○高野 下 | 中村  
 ○沢井 | 柏原○

◆第3回教員・警察・実業団対抗  
 剣道大会 (7月28日徳武)  
 警察 15 | 2 実業団  
 ○吉田博 メコ | 仁木  
 ○佐賀 ココ | 井村  
 ○青木 メコ | 吹田

市場 4 | 1 付属  
 長井 | メ 武知○  
 ○松永 メコ | コ 吉田  
 ○香川 メメ | コ 塩田  
 ○秋山 メコ | 林

市場 4 | 1 付属  
 長井 | メ 武知○  
 ○松永 メコ | コ 吉田  
 ○香川 メメ | コ 塩田  
 ○秋山 メコ | 林

○福井ココ、コ谷本

警察 11.5 教員

吉田メ、コ田村

佐賀ココ、コ佐々木○

○青木ココ、コ白木

○古田ココ、コ富浦

武岡ココ、コ福多○

○山下メコ、コ本田

○四宮メ、コ柴田

武市メ、コ中山

○吉田メ、コ加藤

近藤ココ、コ河田○

○米倉メコ、コ榎本

○那倉メド、コ坂本

○藤本メメ、コ一村

真野、コ西谷○

○美馬ドコ、コ高野

○中尾メ、コ沢井

○岡本ココ、コ福井

◆県警察剣道大会

(8月2日鳴武)

A組 ①徳島東A ②鳴門 ③機動隊  
B組 ①牟岐 ②市場 ③北島

◆第25回武道館開館記念武道大会 (8月4日徳武)

▽準々決勝 直心館3-0丹生谷

支部、徳島支部A2-1阿南支部C、

三好支部A3-0阿波支部B、名西

支部A2-1徳島大学

▽準決勝 直心館1-0徳島支部

A、名西支部A1(本数勝) 1-3好

支部A

▽決勝戦

直心館3-0名西支部A

○田村メ、コ本田

○白木メコ、コ高野

○中山ココ、コ久保

◆第16回県下少年剣道錬成大会 (8月11日鳴武)

【団体】

①阿南剣道教室(久田、鏑形、船越、

杉本、小西) ②鳴門市光武館 ③

育英館 ③大野小学校剣道部

【個人】

▽6年

①伊藤佳昭(誠武) ②板東(北島)

③谷本(徳練) ③坂田(直心)

▽5年

①稲実義浩(阿南) ②阿部(大野)

③山本(徳練) ③住友(山川)

◆第4回県下女子剣道大会 (8月18日藍住武)

【団体】

▽一般 右武館B

▽高校 富岡東

【個人】

▽一般段の部(三十歳以上)

松田三千子(藍住)

▽同(三十歳未満)

寺西佳代子(城北OG)

▽高校段以上

林美枝(富岡東)

▽同段外

齋藤ひとみ(脇町)

◆第5回四国教職員剣道大会 (8月25日鳴武)

徳島5-4香川

○田村メド、コ香西

○佐々木メメ、コ松原○

白木、コ山神

富浦、コ山神

富多、コ山神

○河田ココ、コ藤井○

○榎本ココ、コ藤井

○西谷ココ、コ都倉

高島、コ本田○

福井、コ国金○

徳島4-4高知

○田村コメ、コ藤原

○佐々木ココ、コ宮川

白木、コ大井○

富浦、コ松井○

富多、コ下坂

○富田メド、コ西村

○河田ドメ、コ中野

榎本、コ川添

西谷メ、コ内村○

高島メ、コ吉本

福井、コ久保○

徳島4-4愛媛

○田村メ、コ乗松

○佐々木メコ、コ三好○

白木、コ二宮○

富浦、コ渡部

○富田メ、コ柳原

○河田メ、コ俊野

○榎本ココ、コ坪田

○西谷メ、コ桜木

高島、コ戸梶○

福井、コ横山○

①愛媛2勝1敗 ②香川2勝1敗  
③徳島2勝1敗(1、3位は勝者数、  
勝本数による) ④高知0勝3敗

◆全日本剣道選手権県予選会

(9月8日鳴武)

▽準決勝	近藤	メ	メ	コ	那倉	佐賀	メ	メ	西山	メ	西倉	▽3位決定戦	佐賀	メ	メ	井上	田中
	(県警)				(県警)	(警)			(徳島大)		(徳島大)						
	丹生谷	コ			米倉												
	(支部)				(県警)												
▽決勝	近藤	メ	メ		西谷												

◆第10回県下剣道段別選手権大会

(9月8日鳴武)

【初段】準決勝	福田	メ	メ	メ	石川	吉田	コ	メ	吉田	コ	メ	佐賀	コ	メ	西山	西山
	(富岡西高)				(小松島高)	(県警)			(名西支部)							
	豊田				深山											
	(徳島市立高)				(城北高)											
▽3位決定戦	石川	メ	メ		深山											
▽決勝	福田	メ	メ	メ	豊田	武岡	メ	メ	武岡	メ	四宮	▽3位決定戦	福田	コ	メ	武岡
						(徳島農高教)			(三菱自販)							

◆第30回阿南県下剣道大会

(9月29日阿南工)

▽小学	①阿南剣道教室	②大野小	学校剣道部	③鴨島剣道教室
▽中学男子	①宮浜	②木頭	③阿波	
▽同女子	①阿波	②木頭	③市場	
▽高校男子	①富岡西	②阿南工	③那賀	
▽同女子	①富岡東	②川島	③日和	
▽一般	①海部支部A	②徳島刑務	所	③讃志会

◆第19回高校剣道選手権大会

(11月10日徳農体)

【男子】決勝	トナメント準決勝	和田	メ	メ	島田	和田	メ	メ	多田	ドコ	田中	▽3位決定戦	田中	コ	メ	島田
		(小松島)			(富岡西)				(川島)							

◆第14回県下社会人剣道大会

(10月6日鳴武)

▽決勝	トナメント1回戦	海部	教員3	2阿南支部A	、県警B	4	1徳島刑務所	、三好支部A	3	2木頭	心館	、県警A	4	1鳴門支部
▽準決勝	海部教員2	2県警B												

◆県下少年剣道大会

(12月15日市立体)

【団体】	▽高学年の部	①木頭心館	②大野小	③和田島少年ク	③北川少年ク
	▽低学年の部	①鴨島少年教室	②阿南少年教室	③小松島少年ク	

【個人】

▽六年生の部 ①浅野晃子(鳴門市光武館) ②北条(阿南少年教室) ③伊東(誠武館) ③小林(入田練成会)

▽五年生の部 ①曾我部有司(鳴門市光武館) ②田村(鴨島少年教室) ③佐々木(木頭鍊心館) ③鑄形(阿南少年教室)

◆第30回県下高校新人剣道大会

(1月19日徳農体)

【男子】

▽1回戦 徳島工3-2生光、城北3-2鳴門工、川島4-1脇町、那賀5-0池田、富岡西3-1徳島農、新野3-2穴喰商、小松島5-0徳島商、城東4-1貞光工、城ノ内5-0徳島農神山、鳴門4-1穴吹  
▽2回戦 徳島工4-1阿波、川島5-0城北、那賀3-2阿南工、富岡西5-0三好農林、新野3-2徳島東工、小松島2(本数勝ち)2城南、城ノ内2(代表戦勝ち)2城東、鳴門3-2徳島市立  
▽準々決勝 川島4-0徳島工、那賀3-2富岡西、小松島5-0新野、鳴門3-2城ノ内  
▽準決勝 川島2(代表戦勝ち)2那賀、小松島3-1鳴門

▽決勝

川島3-2小松島  
多田メ-メメ和田○  
○古川ド-島田  
○大島メド-木村  
○榎原メ-メコ石川○  
○長尾ドコ-メ田中

【女子】

▽1回戦 小松島5-0阿波、徳島市立3-2脇町、辻3-2海南、富岡東5-0徳島農神山、日和佐4-1城ノ内、富岡西3-2徳島商  
▽2回戦 小松島4-0鳴門、生光5-0城南、池田3-2徳島市立、辻2(本数勝ち)2穴喰商、富岡東3-2川島、日和佐5-0城北、城東3-1新野、富岡西3-1徳島工  
▽準々決勝 生光3-2小松島、池田3-2辻、富岡東5-0日和佐、城東3-2富岡西  
▽準決勝 生光5-0池田、富岡東5-0城東  
▽3位決定戦 城東4-1池田  
▽決勝  
富岡東5-0生光  
○林メ-山本  
○河野メメ-船崎  
○谷メコ-中島  
○藤井メメ-森  
○国見メメ-鳴海

◆第9回県下中学校新人剣道大会

(1月26日徳武)

【男子】

▽1回戦 立江4-1国府、石井3-0大麻、鳴門23-0勝浦、山川5-0南部、徳島4-1江原、高浦-2応神、北井上3-0板野、鷲敷4-1川内、藍住3-0入田、阿南3-0穴吹、上八万1(本数勝ち)1牟岐、川島4-1阿南二、坂野5-0池田、海南5-0貞光、加茂名1(本数勝ち)1松茂、鳴門15-0北島、文理3-1新野、平谷1(本数勝ち)1富田、津田3-2羽浦、日和佐4-1城東

▽2回戦 富浜5-0立江、石井3-2鳴門二、山川3-0山城、鴨島1-4-0徳島、相生3-1高浦、付属4-1北井上、藍住4-0鷲敷、城西3-1阿南、那賀川5-0上八万、川島2-1坂野、八万4-1海南、市場4-1加茂名、木頭3-1鳴門一、阿南1-3-2文理、平谷2(本数勝ち)2津田、阿波5-0日和佐

▽3回戦 富浜5-0石井、鴨島1-4-0山川、付属3-2相生、城西2(代表戦勝ち)2藍住、那賀川3-1川島、八万2(代表戦勝ち)2市場、木頭3-1阿南一、阿波5-0平谷  
▽準々決勝 宮浜4-0鴨島一、

城西4-1付属、那賀川3-1八万、阿波4-0木頭

▽準決勝 宮浜4-1城西、那賀川3-1阿波  
▽決勝  
那賀川2-2宮浜  
小野ド-メド近藤○  
西岡-コ花川○  
○福岡メメ-藤田  
○小川ド-前田  
○佐野メ-ド小川

(本数勝ち)  
【女子】  
▽1回戦 川内4-1海南、鴨島1-3-2南部、阿南1-4-1北島、川島4-1津田、阿南5-0上八万、山城(不戦勝)羽浦、市場1(代表勝ち)1石井、入田4-1牟岐、城東4-1日和佐、富田5-0穴吹、山川3-1加茂名、付属3-2松茂、城西(不戦勝)江原

▽2回戦 阿波5-0川内、阿南1-4-1鴨島一、阿南3-1川島、市場2(本数勝ち)2山城、那賀川3-2入田、富田4-1城東、山川3-1付属、木頭4-1城西  
▽準々決勝 阿波3-1阿南一、阿南3-2市場、那賀川3-2富田、木頭4-1山川  
▽準決勝 阿波3-1阿南、那賀川3-1木頭

▽準決勝 阿波3-1阿南、那賀川3-1木頭

▽決勝

阿波 4-1 那賀川

○長松 メ 吉田

○小方 コメ 福住

○米倉史 コメ 田上

○米倉聡 コメ 鈴木

○篠原 メコ 原岡

▽3回戦

寺西 コ

佐藤 (宮城)

▽4回戦

藤田 メコ

(茨城)

◆第37回四国四県剣道大会 (5月26日香川)

愛媛 6-3 徳島

○竹田 コメ 寺西

○谷口 コメ 瀬尾

○二宮 メ 四宮

○渡辺 コメ 福多

○田辺 コメ 米倉

○相原 ドコ 吉田

○上垣 メ 藤本

○川村 ココ 柏原

○天野 ココ 岡本

○水口 ココ 坂下

○野村 コメ 大沢

○松本 メメ 勝沼

○塩崎 メメ 美馬

徳島 5-4 高知

○寺西 コ 坂下

○瀬尾 コ 川添

○四宮 メ 有光

○福多 メ 恒石

○米倉 メコ 福原

○吉田 メコ 岩崎

藤本 メコ 渡辺

○柏原 メ 伊藤

○岡本 メ 橋本

○坂下 メ 友永

○大沢 メ 寺田

○勝沼 メ 野田

○美馬 メ 門田

徳島 5-4 香川

○寺西 コ 安部

○瀬尾 コ 藤井

○四宮 コ 福崎

○福多 メ 松原

○米倉 反 白石

○吉田 メ 伊丹

○藤本 コ 三原

○柏原 コ 坂口

○岡本 コ 長尾

○坂下 ドメ 國金

○大沢 メ 上杉

○勝沼 メ 三宅

○美馬 コ 谷川

◆全国警察剣道選手権大会 (5月31日東京)

▽予選リーグ

近藤 コ 山本

(徳島) コ 山梨

近藤 メ 阿地部

(福岡) (福岡)

近藤 コ 石塚

(大阪)

▽決勝トーナメント進出 1回戦

遠藤 コ 近藤

(警視庁)

◆四国高校剣道選手権大会 (6月15・16日松山)

第1日目

【男子団体】

▽予選リーグA組 小松島3-2

高知学芸、新山4-0津田、津田3

2小松島、新川5-0高知学芸

▽B組 明德義塾4-1那賀、琴

平3-2新居浜西、明德義塾5-0

新居浜西、琴平4-1那賀

▽C組 松山西3-1高松、高知

3-2川島、松山西4-1川島、高

知4-0高松

▽D組 松山聖陵2(本数勝ち)

2三本松、徳島市立3-2高知工、

三本松3-2高知工、徳島市立2(引

き分け) 2松山聖陵

各組とも予選リーグ3回戦のうち

【県外】

◆第33回全日本都道府県対抗 剣道大会 (5月3日大阪)

▽1回戦 不戦勝

▽2回戦

大阪 4-1 徳島

石田 メ 佐々木

○平松 コ 福多

○戸田 メコ 近藤

○山岡 ツメ 柏原

○有馬 メツ 坂下

◆第24回全日本女子剣道選手権大会 (5月3日大阪)

▽1回戦

寺西 コ 水谷

(徳島) (滋賀)

▽2回戦

寺西 コ 中島

(長野)

2回戦まで終了。

【男子個人】

▽準々決勝

宮本 本 (吉田)

(高松西) (徳島市立)

▽決勝

伊井 井 (西岡)

(明徳) (高知)

【女子団体】

▽予選リーグA組 高知学芸3

2富岡東、松山西2、1三本松、富岡東3、2三本松、松山西2、1高知学芸

▽B組 高知商2、1日和佐、高松1、0北宇和、北宇和3、2高知商、高松1、2(引き分け)2日和佐

▽C組 松山商3、2高松西、土佐女子4、1徳島市立、松山商3、1徳島市立、土佐女子2(本数勝ち)2高松西

▽D組 済美3、2高松南、川島4、1小津、高松南4、0小津、済美3、2川島

各組とも3回戦のうち2回戦まで終了。

【女子個人】 決勝

東 東 (杉本)

(高松一) (北宇和)

第2日目

【男子団体】 予選リーグ

▽A組 高知学芸4、0津田、新田3、2小松島

▽順位 ①新田3勝②小松島1勝2敗③高知学芸1勝2敗④津田1勝2敗

2敗④津田1勝2敗②③④4位は勝者数による。

▽B組 那賀5、0新居浜西、明徳義塾3、2琴平

▽順位 ①明徳義塾3勝②琴平2勝1敗③那賀1勝2敗④新居浜西3敗

▽C組 高松3、1川島、高知3、0松山西

▽順位 ①高知3勝②松山西2勝1敗③高松1勝2敗④川島3敗

▽D組 高知工4、1松山聖陵、三本松3、2徳島市立

▽順位 ①三本松2勝1敗②徳島市立1勝1敗1分③松山聖陵1勝1敗1分④高知工1勝2敗

2、3位は勝差数による。各組の1位が決勝トーナメントへ進出。

▽準決勝 新田4、1明徳義塾

高知5、0三本松

▽決勝 高知3、2新田

高知は三年ぶり五度目の優勝。

山西2勝1敗④三本松3敗①②③位は勝者数による。

▽B組 北宇和3、2日和佐、高松第一3、2高知商

▽順位 ①高松一2勝1分②北宇和2勝1敗③高知商1勝2敗④日和佐2敗1分

▽C組 高松西4、1徳島市立、土佐女2(本数勝ち)2松山商

▽順位 ①土佐女3勝②松山商2勝1敗③高松西1勝2敗④徳島市立3敗

▽D組 済美5、0小津、川島3、2高松南

▽順位 ①済美3勝②川島2勝1敗③高松南1勝2敗④小津3敗

各組の1位が決勝トーナメントへ進出。

▽準決勝 高松一3、2富岡東

高松一3、1土佐女

済美1、1土佐女

(代表戦勝ち)

▽決勝 高松一2、1済美

高松一は二年連続二度目の優勝。

◆第33回全国矯正職員武道大会

(6月22日東京)

▽予選リーグ

名古屋拘置所 4、1 徳島刑務所

札幌刑務所 2、2 徳島刑務所

(本数勝ち)

◆全日本少年武道錬成大会

(7月27・28日東京)

7月27日

▽予選リーグ

鴨島基本試合8勝22点で通過

▽決勝トーナメント

【一回戦】不戦勝

【二回戦】

鴨島 4、0 浜北

楠 村 4、0 和田

北川 村 4、0 伊藤

三見 村 4、0 内山

植木 村 4、0 渥美

【三回戦】

鴨島 3、2 一心院

楠 村 3、2 佐藤

北川 村 3、2 関

三見 村 3、2 助川

植木 村 3、2 平岡

【準決勝】

鴨島 2、0 八橋

楠 村 2、0 高橋

北川 村 2、0 江原

三見 村 2、0 安海

植木 村 2、0 中村

【決勝】

紘武 4、1 鴨島

○福多ドメ 楠

○山中メメ 田村

○福田洋コ 北川

○新井コ 三見

細井ド コメ 植木

7月28日

▽子選りリーグ 基本試合

(監督が本立となり切返しと打  
込による試合)

阿南 15 | 0 平和

(徳島) 15 | 0 (東京)

○久田 3 | 0 後藤

○稲実 3 | 0 笹野

○船越 3 | 0 林

○杉本 3 | 0 後藤

○小西 3 | 0 正村

阿南 14 | 1 夏戸

(徳島) 14 | 1 (新潟)

○久田 2 | 1 五十嵐

○稲実 3 | 0 木下

○船越 3 | 0 成田

○杉本 3 | 0 梅沢

○小西 3 | 0 黒

▽決勝トーナメント (二本勝負)

【一回戦】 不戦勝

【二回戦】

阿南 5 | 0 隈小

(徳島) 5 | 0 (熊本)

○久田コ 緒方

○稲実メ 安野

○船越メ 野野

○杉本メ 限部

○小西メ 限部

阿南 4 | 0 生田

(徳島) 4 | 0 (兵庫)

○久田コド 荒木

○稲実ココ 浜田

○船越メ 中林

○杉本 畠山

○小西メ 新南

阿南 2 | 0 水海道

(徳島) 2 | 0 (茨城)

○久田 横張

○稲実 矢作

○船越 塚田

○杉本ユ 太田

○小西メ 太田

【優勝戦】

金光 2 | 1 阿南

(岡山) 2 | 1 (徳島)

○秋田 久田

○勝田メ 稲実

○坂根コ 船越

○小笠原 小署

◆等32回全国高等学校剣道大会

(8月21-5日石川)

【男子】

▽個人1回戦

中川 ② 細江 ②

(徳島・那賀) ② (滋賀・八日市)

▽団体予選リーグ

三戸 3 | 2 徳島市立

(青森) 3 | 2 (徳島)

○木村 ② ココメ 福永 ②

○森木 ② ① メメ井村 ②

○佐々木 ② メド ① 対馬 ②

○寺牛 ② ココ ① コ ② 廣瀬 ②

○梅内 ② ① メ ① 吉田 ②

国士館 5 | 0 徳島市立

(東京) 5 | 0 (徳島)

○栗津 ② ② メ ① 福永 ②

○矢野 ③ ③ メ ① 井村 ②

○占野 ③ コメ ① コ ② 対馬 ②

○鬼塚 ③ メ コ ① ② 廣瀬 ②

○碓氷 ③ メ メ ① ② 吉田 ②

【女子】個人1回戦

木谷 ② 尾沢 ②

(和歌山) ② (徳島)

(和歌山) ② (小松島)

鈴木 ② 長松 ②

山形・左沢 ② ① ② 徳島・川島

▽団体予選リーグ

▽団体予選リーグ

川島 5 | 0 首里

(徳島) 5 | 0 (沖縄)

○福原初コメ 森田初

○宮本初コメ 宮城初

○住友初コメ 富元初

○米倉初コメ 垣花初

○長松初メコ 中島初

前橋商 4 | 1 川島

(群馬) 4 | 1 (徳島)

○中山初コ 福原初

○岩田初メ 宮本初

○新井初メ 住友初

○星野初コメ 米倉初

○橋原初コ ② ① ② 松 ②

◆四国中学総体剣道競技

(8月4日香川)

【男子】

▽県対抗リーグ順位 ①香川3勝

②徳島2勝1敗 ③高知1勝2敗

④愛媛3敗

香川は3年連続3度目の優勝。

▽学校対抗リーグ順位 ①高知(高知)

②勝山(愛媛) ③勝1敗

④紫雲(香川) ①勝2敗 ④市場(徳島) 3敗

高知は10年ぶり3度目の優勝。

▽個人準々決勝

徳弘(高知) ① 北村(徳島)

【女子】

▽県対抗リーグ順位 ①徳島3勝

②高知2勝1敗 ③香川1勝2敗

④愛媛3敗

徳島は初優勝。

▽学校対抗リーグ順位 ①阿波(徳島)2勝1分け ②紫雲(香川)1勝

2敗 ③三間(愛媛)1勝1敗1分け

④明德(高知)1敗2分け ②、3

位は本数勝ち

阿波は5年ぶり2度目の優勝。

▽個人準々決勝

武本(高知) 芝橋(徳島)

町田(高知) 米倉(徳島)

◆第27回全国教職員剣道大会

(8月9日山梨)

【団体】

▽1回戦

大 阪 3 0 徳 島

○佐藤ドメーコ村井

○神崎コメー柴田

○平松ココー大石

作道ドメー河田

白藤ココーツ沢井

【団体】

▽高・大・教育委員会の部

1回戦

上 田 福 多

(和歌山) (徳島)

▽中学校教員の部

○1回戦

中 山 杉 浦

(徳島) (北海道)

○2回戦

江 島 中 山

(佐賀)

▽小学校教員の部

○1回戦 不戦勝

○2回戦

川 田 中 原

(兵庫) (徳島)

▽女子教員の部

○1回戦

寺 西 松 田

(徳島) (青森)

○2回戦

寺 西 前 田

(秋田) (栃木)

○3回戦

村 上 寺 西

◆第15回全国中学校選抜剣道大会

(8月21・22日北海道)

第1日目

【男子】

▽男子選リーグ

市 場 2 1 0 相 良

(徳島) (静岡)

○長井ドメー富田

松永メー反則永井

香川ココメ古川隆

秋山ココメ山本

○山田ココメ古川佳

市 場 4 1 山形四

(徳島) (山形)

○長井ココメ

○松永ココメ

香川ココメドメ

○秋山ココメ

○山田ココメ

(市場は決勝トーナメントに進出)

【女子】

▽女子選リーグ

阿 波 2 1 古 川

(徳島) (岐阜)

○米倉ココメ中村

○川人ココメ沖田

上 藤 1 1 橋 本

阿 波 2 1 久 保 内

(徳島) (北海道)

○米倉ココメ高橋

○川人ココメ片山

○工藤ココメ小林

(阿波は決勝トーナメントに進出)

第2日目

▽決勝トーナメント1回戦

北 茂 安 2 1 阿 波

(佐賀)

○大塚ココメ米倉

○福岡ココメ工藤

市 場 3 1 高 千 穂

(宮崎)

○長井ドメー下堂園

○松永ココメ平島

香川ココメ山口

○秋山ココメ甲斐智

山田ココメ甲斐正

▽準々決勝

国 士 館 3 2 市 場

(東京)

丸 山 1 1 長 井

佐々野ココメ松永

○石川ドメー香川

○碓氷ココメ秋山

○佐藤ココメ山田

◆四国矯正管区剣道選手権大会

(9月4日高知)

▽予選リーグ

1 組 森 直 行 (徳島) 3 位

2 組 西 字 康 治 ( ) 1 位

3組 鈴木伸一(徳島) 1位  
 4組 吹田裕(〃) 3位  
 5組 武田修(〃) 2位

▽決勝リーグ  
 西字(徳島)① △鈴木(徳島)  
 中尾(高知)② △白井(高松)  
 ▽三位決定戦  
 白井(高松)② △鈴木(徳島)

▽決勝戦  
 中尾(高知)② △西字(徳島)  
 この結果、中尾、西字、白井が全  
 国大会出場

◆四国管内警察剣道大会

(9月13日愛媛)

香川 6 1 徳島  
 ○伊豆野判 吉田博  
 ○真鍋メ 四宮  
 ○川筋コメ 武岡  
 ○福崎判 那倉  
 ○三浦メ 吉田昌  
 ○伊丹コメ 近藤  
 貞広 1メメ 米倉  
 愛媛 4 3 徳島  
 渡辺 1ドコ 吉田博  
 ○遠藤メ 武岡  
 菊地 1メ 四宮  
 大城戸 1コ 吉田昌  
 ○宮脇判 那倉  
 ○岡田コ 米倉

○相原ドメ 近藤  
 高知 4 3 徳島  
 ○森田メメ 吉田博  
 ○塗本コメ 武岡  
 ○有光メ 四宮  
 恒石メ 1コ反 吉田昌  
 ○秋山メ反 1コ 那倉  
 上田 1コメ 近藤  
 岩崎 1メ 米倉

①愛媛3勝 ②香川2勝1敗 ③高知1勝2敗 ④徳島3敗

◆第20回全日本居合大会

(10月6日沖繩)

▽五段の部  
 田中(広島) 1 青山(徳島)  
 ▽六段の部  
 ○2回戦  
 高橋(徳島) 1 松岡(愛知)  
 ○3回戦  
 大群(熊本) 1 高橋(徳島)  
 ▽七段の部  
 高山(東京) 1 平尾(徳島)

◆四国矯正管区新人武道大会

(10月16日愛媛)

徳島刑務所③ 1 少年施設連合  
 高松刑務所② 1 △徳島刑務所  
 (代表戦で高松の勝)

徳島刑務所③ 1 △松山刑務所  
 徳島刑務所④ 1 △高知刑務所

優勝 高松刑務所  
 2位 徳島刑務所  
 3位 少年施設連合

▽個人戦 有段者の部  
 3位 細川 泰(徳島)  
 3位 高田 匠(徳島)  
 ▽個人戦 無段者の部  
 2位 森 宗義(徳島)  
 3位 谷本 昌治(徳島)

◆全国矯正職員武道選手権大会

(10月19日大阪)

▽予選リーグ  
 西字(徳島)② 1 △西川(大阪)  
 西字(徳島)① 1 △本村(熊本)  
 西字(徳島)② 1 △宮内(札幌)  
 増田(静岡)② 1 △西字(徳島)  
 ▽決勝トーナメント1回戦  
 飯ヶ谷(名古屋)② 1 △西字(徳島)  
 この結果、西字選手は法務大臣から技術優秀賞を受賞した。

◆第3回全日本小・中学生女子個人選抜剣道錬成大会

(10月20日福岡)

「第三回全日本小・中学生女子個人選抜剣道錬成大会」(全日本剣

道場連盟主催)が二十日、福岡市で開かれ、那賀郡木頭村の北川小学校六年、小藪香さん(三)が同村北川が小学生の部で見事優勝した。

◆第40回国体剣道競技

(10月21、23日鳥取)

【少年】1回戦  
 群馬 4 1 徳島  
 ○小林②ココ 1 笹谷②  
 ○上原②コ反 1 茨木②  
 ○設楽②メコ 1 中川②  
 富沢② 1 1メメ古川②  
 ○田村②メコ 1 吉田②

【成年】2回戦

埼玉 3 1 徳島  
 大沢⑤ 1 1メ 吉田④  
 ○加治屋⑥ココ 1 米倉⑥  
 ○安田⑥メコ 1 中尾⑦  
 ○根岸⑦コ 1 坂下⑦  
 大久保⑧ 1 1ツ 下村⑦

◆第33回全日本剣道選手権大会

(11月3日東京)

▽2回戦  
 近藤⑥ 1 1メ 橋本⑥  
 (徳島県警)  
 ▽3回戦  
 近藤⑥ 1 1コ 1コ  
 (徳島県警) 鹿兒島  
 松本⑥ 1 1コ 1コ  
 (鹿兒島県警)

▽準々決勝

西川⑥ コ 延長 (京都府警) 原田⑥

石塚⑥ メメ 大門⑥ (富山県警)

(大阪府警) 貞広⑥ (香川県警)

北村⑥ メ 坂本⑥ (大阪府警)

(熊本県警) 近藤⑥

(徳島県警) 石塚⑥

▽準決勝 近藤⑥ 判定 北村⑥

石塚⑥ メ 西川⑥

近藤⑥ 判定 北村⑥

▽決勝 石塚⑥ 近藤⑥

◆全国警察剣道大会

(11月6日東京)

▽1回戦

徳島 6-1 青森

○吉田博 メ 齋藤

四宮 コメ 板橋○

○吉田彰 コド 杉田

○吉田昌 メ 福田

○米倉 メ 中野渡

○近藤 メメ 原子

○那倉 コメ 今村

▽2回戦

福岡 5-2 徳島

○曾木 メコ 吉田博

清田 メ 下判 四宮○

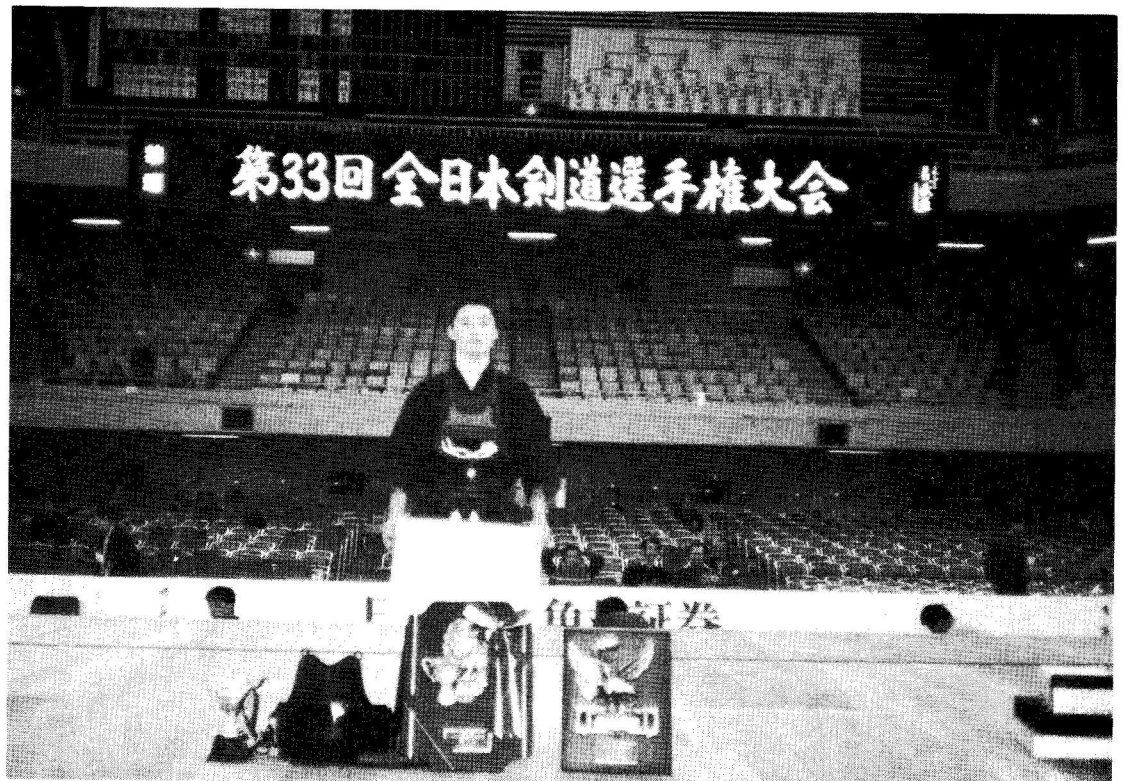
○柄木 コーコ 吉田彰

○横川 コーメ 吉田昌

森光 ーメメ 米倉○

○鳥巢 コーメ 那倉

○石橋 コーメ 近藤



## 〈アンケート特集〉 あなたが剣道から学んだものは

剣道を始めて二年になります。その間に学んだことはたくさんあります。

その一つは、礼ができるようになったことです。朝のあいさつなど、大きな声で言えるようになりました。家族やとなりの人や友達にも……。それから、時間やきそくを守ること、そして集中力を身につけること、さらに「やる気」の大切さなどです。これからも、りっぱな人間になるように剣道を続けたいと思います。

(逢坂和仁・10才・五級・美馬町郡里小学校)

ぼくは剣道をするようになってからは体がじょうぶになりました。暑いときも寒いときもがんばってけいこに通ったおかげだと思います。また、サッカーなどスポーツがうまくなったようにも思います。剣道をならいはじめてからけんかをしなくなりました。

(久米廣志・10才・二級・高川原小学校)

剣道を習って2年目になります。今までは学校の友達しか知らなかったけど、高川原の人や上浦の人たちと友達になりました。試合に行ったりして、少しだけ遊んだりして知り合いました。そういうことがあって、剣道をやってよかったです。友達がふえたし、しせいがよくりました。学校でもほめられるようになりました。本当によかったです。

(熊谷倫子・10才・四級・石井小学校)

私は、一年生から剣道を習っています。剣道を習いだしてから、何でもはすかしがらすにはきはきと言えるようになりました。剣道を習ったおかげで礼儀がよくできて、あいさつはだれにでもできるようにになりました。それから、しんぼう強くなりました。みんな剣道の先生がしかつてくれたり、やさしく教えてくれたりしてくれました。

(橋本 理・11才・三級・高川原小学校)

剣道を始めて3年目になります。剣道のきびしさと楽しさが分かりかけたところですが、冬の寒い日、夏の暑いときには、休みたいと思ったときもありましたが、今では週2回の練習が楽しみになりました。剣道から学んだものは、礼儀、練習を続けることの大切さ、一生けんめいやったあとのさわやかな気持ちの3つです。これらは何をやるにも大切なことだと思います。

(日下敏幸・11才・三級・横瀬小学校)

最初に、姿勢が良くなりました。それまで曲がっていた体が真っすぐになりました。

次に、大きな声で、大勢の人前で物をしゃべれる自信もつきました。

自給力もついたし、今までしかなかった学校の子とも友達になりました。

剣道を教えてもらって、今までになかった物をたくさん学び、少しずつ自分のものにしてきました。

(河内章文・12才・五級・新開小学校)

ぼくは、剣道で、まず礼儀という言葉を学びました。剣道は「礼にはじまり礼におわる」ということを学びました。

次に学んだことは、「根性」です。剣道をやっている、もうあとひとふんばりという根性が大事だということを、ぼくはしりました。もう一つは、「たくましい体で」という、力強い言葉を学びました。強い心でたくましく、これからも進もうと思います。

(井上昌也・12才・一級・石井小学校)

学んだものは、しせい、言葉使い、声の強弱、れいき、友達の大切さ、気持ち、友情、愛情、それと何事も努力すれば何でもできるということ。

これを全部まとめて、学んだものは、剣道で一番大切な「心」を学びました。

(野村謙次・12才・四級・南松島小学校)

剣道から学んだものは、礼儀です。それは剣道をする時でも「礼に始まり礼に終わる」と指導されてきました。ふだんでも礼儀正しくしているとさわやかな気分になってきます。人を敬う態度を忘れずに剣道を通じていけば、きつと礼儀ということの大切さが分かってくるにちがいないと考えています。そしていつまでも学んだ事を大事にとっておこうと思います。

(谷口 勝・12才・一級・牟岐小学校)

剣道を始めて五年になり、得た事はたくさんありますが、その中で一番はしかなかったもの、それは体力です。剣道をする前は、何をしても息切れがして人並みについて行く事ができませんでした。嫌いだっただ体育も、今では楽しくなりました。「ぼくは、剣道をしているから、体力ができたのだ。」とよく思います。体力は、何をしても必要です。これからもずっと剣道を続けようと思います。

(小谷慎也・12才・松茂小学校)

剣道というとやはり「礼に始まり礼に終わる」というように、私は剣道から第一に礼儀正しさを学びました。近所の人に、あいさつをしてよくほめられました。ほめてもらえるということはとてもうれしなことなので、すばらしいことが学べたと思います。次に竹刀をふるおかげで手首の力が強くなり、父母の肩をたたくときに、前までは10分もすると手がだるくなっていたのが今では30分でも平気です。剣道を習いとてもよかったです。

(林和歌子・12才・松茂小学校)

剣道——。私がこの道を志して四年。やっと剣道という武道と剣道をする楽しさが分かり始めました。始めはただ「剣道」を一種のスポーツとして見、そして、試合で勝つ事だけがその時の私の唯一の楽しみでした。でも今は違います。練習は厳しく、以前はそのつらさに泣いた事もありました。でも今はその厳しい練習だけが私を支えてくれているのです。

私は必ず、何事も自分自身が決意した志しを忍耐と根気で、やりぬいてみます。(豊田裕子・14才・二級・北島中学校)

僕は、剣道をやり始めてから六年目になりますが、その剣道というものに接していたおかげで、小さいころの僕には無かった忍耐力、積極性が身について来ました。これも、毎日少しずつやって来た諸練習の効果だったんだと思います。そして、多くの先生や友達にもめぐり会えたことも僕にとってよかったです。これからも一層、自分の心と体を養っていきたいです。

(鉄谷雅史・14才・初段・日和佐中学校)

私が剣道から学んだものは、礼儀です。剣道では「礼に始まって礼に終わ

る」というように、礼儀はとても大切なものとされています。剣道を始めてから感じたことです。礼儀を怠ると稽古にも身がはいらなくなり、その日一日がとても優うつになりません。だから、これからは道場だけでなく、日常生活においても礼儀を忘れないようにしたいと思います。

(竹中美千代・16歳・初段・辻高等学校)

小学三年の時に、剣道に出会い今日にいたっています。初めて防具を着けた時の喜びは忘れる事の出来ない思い出です。試合において勝つ事の喜び、負けた時の悔しさ、反省、友人への思いやり、又次の試合に掛ける練習の厳しさ、期待など僕が剣道から学んだもの、それは一つの事に懸命に立ち向かう姿勢、努力です。

(島田靖之・17才・二段・小松島高校)

現在自分達の生きている世界は、同世代の狭い世界です。しかし、剣道を通し、世代を越え広い心かつ深い考えの人と接する事ができ、自分にはない厳しさや思いやりを学んだように思います。しかし、まだ未熟なため自分に甘え、自己中心になりがちです。そのため、今後も技術面だけでなく、より人間らしく、またより女性らしく生きるための人生の道を日々の稽古の中から学んで行きたいと考えます。

(若井潤子・20才・三段・四国女子大学)

剣道は、多に学ぶところがあつたと思う。剣道を始めて十四年目に入りますが、今までやってこれたのは、自分の心の礎となりまた誇りだったからである。それは、集中力、ねばり強さはもちろんのこと、規律正しさ、人間関係が自分に身についたことである。またぼくたち学生にとって、社会人と接することの多い剣道は、いい社会勉強になった。最後に、剣道をやって本当によかつたと思う。

(須田順一郎・20才・三段・徳島大学)

剣道から学んだものはたくさんあります。稽古の時には、自分以外は皆師であると思い、稽古をする事。試合の時には欲を出さず、無心というものが大切だとわかりました。これからは学ばなければいけない事がたくさんあると思いますが、剣道というものは奥がふかく、すばらしいものだと思います。

(美馬和義・24才・四段・建材センター)

「剣道から学んだものは」と聞かれて思う事は、「礼儀」ということこそ、別に剣道をやらなくても身につくものですが、私の場合は、特に剣道を通して学んだものが多いように思います。剣道で学んだ、相手を敬い礼をつくすということは、日常生活の中でも私にとって大きなプラスになっていると思います。これからも礼儀を忘れず努力していきたいものです。

(岡内和生・27才・四段・城西中学校教員)

剣道を始めて早18年目がこようとしております。自分なりに剣道から学んだ事と申しますと、厳しく又苦しい稽古であっても、自分から進んで稽古する場合は楽しい事であると感じます。又、いくたびか苦境に立たされた時など、稽古によって生きるささえとなり、そして道が開けたものです。

(鈴木伸一・30才・六段・徳島刑務所刑務官)

私が剣道と出会って二十年になる。こう書いて改めて、二十年もの間よく続いたものだと思う。いやになって「もうやめた」と何度も思ったが、良き師、良き先輩方に恵まれたおかげで、「何くそ」とはね返してこれた。そしてその度に精神的にも技術的にも伸びてこれたように思う。指導する立場に立ち強烈に思うのは、剣道が性格や人格をそのまま表すことである。常日頃から礼を尊び、納得し、させる剣道を心がけたいものである。

(榎本英夫・32才・六段・上八万中学校教諭)

私が、剣道を通じて学んだことは、まず「礼節」、「集中力」この二つを掲げます。次いで、私の剣道から「気力」と言う言葉は、忘れてはならないものです。

(北岡健治・33才・三段・美馬西部消防署)

私は、剣道を現在まで続けて来て学んだことは、

一、相手の立場を考えるようになったこと。

一、剣道を純粹に愛する人は、皆平等で年齢の差に関係なく、互いに認め合う姿勢があること。

一、剣道と人の生き方はよく似ているということ。

以上三点です。(西谷肇一・34才・六段・那賀高校教諭)

厳寒の中、ブルブル震えて防具をつけると、なぜか身体がピンとします。竹刀を振って三年余り、漸く剣道の心髓がおぼろげにわかりかけてきました。「忍耐」とそして「自分との戦い」基本を忠実に、そして姿勢を正しくすることで、私自身が女性として、又母親として一人前になったように思います。これからも子供達と一緒に喜び合い、励まし合いながら、本当の剣の道を極めたいと考えます。

(有松京子・34才・二段)

少年剣道教室の世話をしながら、久しぶりに稽古を再開した。子供達と竹刀を振るうち、子供達が感じている剣道と親達が考えている剣道、指導の先生方の考えている剣道に多少の差異を感じた。しかし、その中から子供達に接するには、気持に余裕を持って気長にあわてず、無理押しせず自然の流れに乗って稽古をする事の重要さを強く感じる様になった。

(柳森哲雄・37才・初段・日本電工株式会社徳島工場)

勝浦少年剣道教室の諸先生方に、毎週二回御指導頂き、子供達と一緒に練習して一年六ヶ月になります。この間、本当にいろいろ良い事ばかり学ばせて頂き、この年になって今まで何一つ運動が出来なかった私ですが、運動する事に自信が付き勇気がわいて来しました。礼儀作法を重んじ、気力を養い、又子供心に帰り、大変若々しい気持を持つ事ができ、諸先生方、子供達に感謝し、家族の理解を喜び、これからも一生懸命頑張ろうと決心しています。

(椎平陽子・38才・初段・会社員)

健康管理とストレス解消をと竹刀を握って一カ年が経過しました。全身に汗を流した後の爽快さを良として、剣道修練の門を潜り遙かなる道を辿りながら、礼節を重んじ、心身を鍛錬し、静と動との技を決断する自己との闘いを人格形成の原点と考え、家庭人、社会人としての責務を全う出来る人間をめざして、剣道をより深く学ぶ人生を送りたいと願ひ、けい古に励んで居ります。

(山下利幸・46才・初段・轆牛尾)

剣道は人間形成の手段方法であるとともに、剣道それ自体の修練が人間形

成である。剣道は競技年令が高いため一時期の体力養成ではなく、まさに生涯体育として人間にとって最も大切な生命のための健康体力の保持増進に有効な最適の運動といえる。気力、忍耐力、集中力、判断力、集中力、真剣さ等、何事にも屈せず真正面から取り組む態度、つまり自己の確立、そして四戒（四つのいましめ）この教えは剣道だけでなく、ふだんの生活にも大変役に立つ教えで、驚愕疑惑の弱い心を打ち破って強い心を持った人になるための教えなのです。

（張西政晴・49才・四段・野田産業）

中国の書家、某氏が「心正しければ則ち筆正し」と申されていますが、剣道においても同じことが言えるのではないのでしょうか。私は剣歴五十余年になり、その間に五百名近い子供たちの手ほどきをさせて貰いましたが、始めた頃も現在も、剣の技を教えることは第二義にし、第一には「剣の心」を学んで貰うことをモットーに終始してきました。今後はこれと併せ、「初心忘るべからず」を自らに言い聞かせて参るつもりです。

（三木利夫・徳島刑）

剣道の高段者は必ず基本を守る。高段者であるが故に基本から離れた技を使ってもおかしくないのに使わない。世の中にはいろいろな道があり、その道にも基本がある。私も技術マンとして三十五年になる。仕事に追いこまれて苦しい時など、いいかげんな技で裁いても無理。苦しい時こそ剣道と同じように基本を大切に、確実な技で裁くと楽しく勤めが出来る。私の人生これからだ。基本を大切にかんばりたい。

（西岡 侃・50才・五段・会社員）

子供が剣道を始めて早五年、やがて小学校最高学年。姉は今年受験生ですが、高校に入っても剣道が続けると言っています。私も昨年から少し練習を始めました。日頃遠慮勝だった先生方、又遠方の先生方とも話し合える機会が多少とも出来、心の通う指導を受け感謝しています。苦しいですが、健康、忍耐力がつくと思ひ頑張っています。又子供の事でも剣道を通じて教えていただける事の多さ、又巾広い人と人との関係、子供と一段と深い対話が出来るようになり、非常に喜んで居ます。

（近藤一弘・農業）

二人の息子に、礼儀正しく健康にと剣道を小学校低学年より習わせております。そして、長男は中学総体で北海道まで行きました。その間、精神面でも肉体面でも落ちこぼれかけでしたが、頑張つてなしたとげた今、明るく頼もしくなったようにも思われます。次男は、友達も多く、中学校へ入ったら剣道部へ入って一生懸命して、高校へ入ったら勉強を一生懸命にするとか云つておりますが……。

（牧本 滋・市場剣道教室・商業）

我家は中一と小三の息子二人が剣道を習っております。長男が風邪をひきやすく、又気の弱い面が見られる為、少しでも丈夫な身体と根性が出来ればと思い剣道を選んだのです。夏は「土用稽古」、冬は「寒稽古」と、厳しい稽古にも耐えて今では風邪一つひかない健康な身体と忍耐が少しずつ出来てきたのではないかと思っております。特に剣道をとおして、友達との和、又親子の対話も自然に出来る様になり、剣道を習わせてよかったと心から思っております。

（瀬野俊二・農業）

私が剣道を学び始めたのは小学校五年生からである。長い戦争と戦後の中絶期間と相当長期間の空白も否めないが、とにも角にも今日まで剣道とのかかわりを持ち、剣道から学んだことはまことに多い。直接的な身心の錬成錬磨は云うをまたず、特に処世の訓えとし、心の糧として自己陶冶につとめて来たものに剣道の理論がある。平常心、残心、先、虚実、守破離などなど。これらはただに剣道のみならず、人生百般の真理である。ややもすると技術面に片寄り勝ちな今日の剣道に、更に剣道の理法理論の修得に力を致し人間形成に資したいものと考え。

（山脇隆志・62才・六段・退職公務員）

剣の理念を実生活の中に活かすことは至難の技のようで、その日の生活習慣のうち特に人との面接に当って有段者として恥しない行いが出来たであろうかと反すうし、私なりに身についたことの一端を上げると、礼の間合、相手の出に合せた目線と言葉、打つべき機会とも言うべき言葉のやり取りなど牛歩ではあるが、以前の私よりタイミング良く行動がとれるようになったと剣の功徳をかみしめるものである。

（岡島茂雄・64才・五段・行政書士）

高ぶらず、驕らず、常に謙虚な気風の内には先生、先輩に対する礼節と一端竹刀を手にすれば、獅子王の如く、如何に強き者に対しても又弱き者に対しても同じく全力を集中する事の大切さは実社会に於ける諸事に対しても又同じである事を学び取ることが出来ました。(佐藤藤太・67才・五段・商業)

私が穴吹町少年剣道教室を開いたのは昭和五十六年四月だった。

開室した時、児童は三〇名であり、「礼儀正しく元氣な子」を目標に週二回の練習を始めた。先ず指導者がすべての節を示さなければならぬと考え、駆歩から準備運動まできちんとやるよう心がけた。五年経た今も初心を忘れず続けている。おかげで健康で教育のすばらしさを身をもって感じとれた。

(石井一郎・67才・五段・穴吹町教育委員会勤務)

稽古着に着替え防具をつける。心気一転もう寸豪の邪念もない。「勝負始め」そこにあるものは相手のみ。やらなければやられる。そして勝敗は一瞬にして決する。これが人間実社会すべてに通じると思う。礼儀に始まり礼儀に終る。さあ今日も元気で働こう。また明日へ、遠く祖先より受継いだ剣道精神で。そして此の精神こそ何時迄も／＼も若くて年令はない。

(河内憲二・67才・三段・農協参事・一字村農業協同組合)

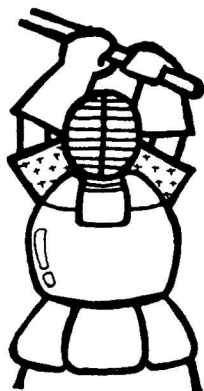
「真剣な努力」これは、勝利者のみが味わう言葉ではないでしょうか。

私は少年剣士の指導に当って、八年間少年を見つめて参りましたが、真剣に努力する者こそ上達も速く、毎日が楽しそうです。反対に親に言われるから洪々やって来る者は、何時までたっても上達しない。これでは、何をやっても無駄……。真剣に努力してこそ精神統一を養い、やがて世の中の勝利者への近道を突走ることが出来る、ことを提言したい。

(富永利男・68才・三段・北島少年剣道教室会長)

剣の道は奥深く道は遠いが、永い修行で心の通う仲間が出来て楽しい。老の身も健康で、ほけるにはまだ間がありそうである。青少年健全育成に意欲をもつて、後援会の援助を受けながら十六年、子供の健康と不良化防止の人道から、社会の理解を深め、回を重ねて開く大会で普及度が高まり、剣道が

那賀川の里に根をおろし、益々盛んである。生涯終着点なき剣の道を追求して生きたとして。 (磯部茂治・78才・七段・那賀川少年剣道クラブ)



# 支部だより

## 阿波支部

### 市場町立武道館について

阿波郡市場町興崎の旧中学校校跡に町立武道館が建設され、昭和六十年四月廿一日の佳き日に道場開きを行った。

武道館は、鉄骨平屋建、七一〇・五平方メートル（十メートルのコート四面）、七千七百万円の事業費。

地方では稀れな大きな立派な武道館でなかろうか。

敷地の興崎は、阿波藩政初期蜂須賀忠英が慶安三年（一六五〇年）設立した藩独特の制度「原土」の集団が住居した所である。彼等は自己の任務達成の為、農業を営むと共に武芸学問に励んだので昔より文武の有名な道場があった。

近くは戦前、海軍航空隊の飛行場であったので、若い予科練生を生命を賭して訓練した。又、近世幕末から昭和初期まで阿波の剣道を支えた心形刀流の佐藤兄弟、貫心流の山根正雄範士、近江佐久郎範士の生れたのもこの地区である。正に地霊、人傑の聖地のこの武道館で先人の君に一歩たりとも近づこうと我々は日夜修練している。

願くは、各支部の先生方、同好の士、御来駕、御指導賜らんことを。

徳島県剣道連盟阿波支部長 坂 本 裕 二

## 海部支部

日和佐剣道スポーツ少年団、日和佐剣道教室小一年より六年まで二十五名、稽古指導毎週水士二回、午後六時から七時三十分まで。指導者、平岡竹雄(72)、張野久晴(61)、滝本博文(48)、張西政晴(49)、富士原秀清(48)、吉坂涉(25)、近藤浩文(26)、張間義久、八名。

牟岐剣道クラブ 小一年より六年まで三十名。稽古指導、毎週四回、昼の部水木午後五時三十分より六時三十分まで、夜の部午後七時十五分より八時三十分まで。指導者、丸岡英明(40)、影山美雄(41)、美馬和義(23)、藤井直(25)、四名。

浅川少年剣道教室 小一年より六年まで二十三名。稽古指導、毎週二回、午後七時より八時まで。指導者、丸岡偉人(36)、山口修(62)、篠原一二(62)、三名。

由岐剣道クラブ 小一年より六年まで二十二名。稽古指導、毎週二回、六時より七時三十分まで。指導者、松木央(56)、辺見勝正(25)、元井司(25)、三名。

海部川剣道教室 小一年より六年まで三十名。稽古指導、毎週二回、午後七時より八時まで。指導者、山崎直光(32)、森本好美(61)、西山勝喜(61)、三名。

支部スポーツ祭は、午前中、小中高生の基本と錬成試合を実施。海部支部指導者講習会は年一回、県の先生ご指導で実施。前夜青少年と共に実技講習後、ご父兄を交え剣道より生れる実社会生活についての講話会を実施しております。支部指導者全員、毎月一回五教室、クラブ持ち回りで稽古、試合、形の研修を実施。海部郡剣道錬成大会、小中高生をもって、年一回町教育委員会にて実施。寒稽古、暑中稽古は各教室、クラブ内で実施。年始に一回、教室によっては個人戦に賞状、賞品、精勤賞を授与する。少年部では、ご父兄会役員改選等があります。

剣道を修練する者は、質素を忘れず、服装や道具は持たねばならぬが、華美な物、分すぎた物、ぜいたくを慎み、質実剛健な武道精神を忘れないこと。技に遅れても自己を卑下してはならぬ。武道は技より心身の鍛錬であるから、心では負けなないと自尊心をもつことである。

## 美馬西部支部

### 美馬西部支部内の剣道教室について

最近の支部内の剣道も著しく変化し、これ迄の大人を対象とした防犯柔剣道大会等も影を潜め、青少年非行化防止と健全育成への方向へと変りつつあり、即ち大人の剣道から子供の剣道へと移行しつつあり、子供達の剣道教室を中心として大人も子供達の稽古場で練習する機会が多くなった事である。

ここで美馬西部支部内の剣道教室をご紹介しますと、次の通りです。

一、貞光町子供剣道部 創立昭和四十九年十二月。事務所、貞光町社会福祉協議会内。部員数、三十五名。部長、佐藤藤太教士。指導者、楠本利光五段、村上政茂三段、大畑優作三段、近藤俊之二段、藤本情仁初段。稽古日、毎週土曜日午後六時より二時間。場所、貞光小学校体育館。大会、毎年十月又は十一月美馬西部少年剣道大会。過五十一回開催。

二、半田町小野地区子供剣道教室 創立昭和五十六年十二月一日。事務所、美馬郡半田町教育委員会。部員数、三十五名、他に一般六名。室長、大川一五段。指導者、北岡健治三段、西尾武明三段。稽古日、毎週火・土曜日午後七時三十分より九時迄。場所、半田町小野公民館。大会、美馬西部少年剣道大会。

三、美馬町剣道教室 創立昭和五十九年四月一日。事務所、美馬町教育委員会内。部員数、三十六名。室長、香西虎夫五段。指導者、花岡篤四段、三好正也四段、河野恒夫三段(副室長)、北岡健治三段、金谷和夫二段。稽古日、毎週水・土曜日午後六時より七時三十分迄。場所、美馬町重清東小学校体育館。大会、美馬西部少年剣道大会(昭和六十年より貞光、半田、美馬、三町持ち廻りで開催)。

以上、県剣道連盟の諸先生方の格別の御指導を乞う。

## 麻植支部

麻植支部では、次の二点を数年前から実施しております。其の第一点は、支部会員の合同稽古です。御承知の様に麻植郡は、鴨島から川島、山川、美郷と東西に長い地形になっております。其の為、支部会員が顔を会わせる機会が少ない悩みがあります。其れと、各地区共少年剣道教室を開いておりますので、各先生方が多忙なるも大きな原因です。そこで、月一回各地区の稽古日の合間を見て、会員の合同稽古を始めたいのです。これは会員からの強い要望があつたのでしたので、その機会に各教室の指導上の悩み等話し合い、平尾先生からのアドバイス等もいただき参考に致しております。稽古には三十数年前の支部結成時の顔ぶれも集まり感激でした。高校生から若手の先生方も、教室とは一味違ふ稽古が出来喜んでいた様です。地域的な問題や各先生方の仕事の都合も有り、大変困難な面も有りますが、出来る限り長く続けて行きたいと思っております。

其の第二点は、最近各支部で大会が多く、子供達が文武の両立をはかるのに大変だろうと言う事です。其れは指導に当る先生方も勿論同じです。そこで麻植支部では会議の上、今迄山川と鴨島でそれぞれ行つていた大会を隔年にし、支部大会は年一回としました。そして非番の年に当る地区がスポーツ祭を受持ちます。其の為、各都市支部の皆様にお掛けする度合いも少なくなり、又隔年という事で内容の充実した大会が開ける様に思います。今後共、県連並びに各都市支部の先生方の御指導を得て、少しでも地域青少年の育成に努めたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

徳島県剣道連盟麻植支部長 笠 井 恵 之

# 板野東支部

(支部役員)

支部長 中谷智好

評議員 菊川克己

理事 川田武志

久次米俊治

(支部剣道教室)

○松茂少年剣道教室 五四名

代表者 石井清文

指導者 川田武志・原田 進・久次米俊治・松井竹彦・米田利彦

○北島少年剣道教室 五八名 成人二名

代表者 富永利男

指導者 三木只雄・伊丹 要・大久保暹一・菊川克己・長船正則

○北島町誠武館道場

館長 中谷智好

指導者 大野義則、西根 勲

(支部事業)

○第十二回板野東支部剣道錬成大会

十一月二十四日、午前九時、北島町勤労者体育館で一五〇名の豆剣士を

集め、第十二回板野東支部大会を開催いたしました。

中谷支部長の挨拶の後、北島県会議員、新見北島町長、吉田支部顧問の激励、祝辞を頂き、基本錬成では三木只雄連盟会長を講師にお願いし、生徒、指導者共にご指導を頂きました。つづいて全員による掛り稽古を実施し、午後試合錬成に入りましたが、父兄の応援、剣士の気合で館内熱気一杯の一日でした。

○第十三回板野東支部剣道錬成大会

昭和六十一年十月二十六日(日)

○支部合同指導者錬成会毎月一回

日本剣道形・審判法・少年指導法

(剣道教室関係行事予定表) 昭和六十一年度

○松茂少年剣道教室

七月六日

山田武雄杯剣道大会

八月二・三日

夏季合宿(上用稽古)

十一月九日

松茂町少年剣道大会

一月十一日

鏡開き

○北島町誠武館

四月五日

入門式

四月

第一回進級審査受験開始

八月

対外交渉錬成会

十二月二十三日

年末稽古納め

一月十一日

鏡開き(稽古初め)

三月十五日

北島町剣道錬成大会

○北島少年剣道教室

三月二十八日

精勤者表彰・六年生送別会

四月三日

入門式

七月二十一日

土用稽古

十二月二十二日

年末稽古納め

一月一日

初稽古

三月二十四日

六年生送別試合

## 刑務所支部

### 新進気鋭の充実を目標に

わが支部は、県警と同じく、柔剣道とも正科であり、いずれかの部に属さねばならないこともあって、剣道部員の数は優に百名を越えている。しかし現実には、道場の広さ、勤務時間等の制約もあり、その半数が交互に土・日曜を除きほとんど連日強化錬成に励んでいる。特に三・四年前から三十才未満の若手職員の特訓に焦点をしばった結果、その成果は顕著に挙がった。

四国管内矯正職員新人大会では、五十九年度に優勝、六十年には準優勝の栄誉に輝いた。また一軍であるレギュラーメンバーの活躍もすばらしく、昨年度の四国管内施設対抗試合では念願の優勝を遂げ、東京大会に臨むことが出来た。しかし県下大会に於ては、残念ながら一応優勝戦まではこぎつけるのだが、いつも県警の傘下に降る憂目をみている。このライバルに何とか雪辱を晴らし一矢を報いたいというのが、当支部の目下の目標というところである。

(三木記)

# 編集後記

近藤巨選手の全日本選手権準優勝の特集を組んだ。かつての恩師や同僚に原稿の執筆を依頼したところ、こころよく引き受けていただき、すぐ、あたたかいメッセージが送られてきた。

これらの原稿に目を通していくうちに、そこに共通して書かれていること、あるいは、文中の行間から滲み出てくることは、「努力は天才にまさる」という事実である。彼が身を持って示してくれたことは、将来を担う中・高生に大きな影響を与えた。本当にご苦労さま、ありがとうございます。言葉を彼に贈りたい。

「汝の行動は 汝の予言者」といふ言葉が聖書の中にある。この言葉に、夕暮るような話がある。私には、かつて巨選手の練習を見たのは、三浦市にある市内武道館において、三浦市立第三中学校の練習が盛況で、巨選手の姿を多く見ることができた。巨選手の姿を多く見ることができた。巨選手の姿を多く見ることができた。

の彼は、私の目からみて、とにかく変わった練習をしていた。スピードあふれ、気力充実したすばらしい練習や試合を展開する県警の剣道選手の中で、きわだって基本を大切にし、繰り返し、ゆっくり大きく打っていかうとする彼を見た時、正直、本当にならなかつた人だという印象を受けた。その行動が、十数年後の彼の快挙を予言していかうとは、当時夢にも思わなかつたが、今振り返ってみるとうなずけるような気がする。

私達の「今」の行動が、自分自身の「将来」を決定する。それは、何日後あるいは何年後になるかわからないけれど、自分の運命をつくるのは自分自身であるということをおきかえ命じておきたい。「汝の行動は 汝の予言者」

今、県下の中学校校優秀選手を多数集め強化合宿を実施している。私はそのお世話をさせていただきながら、この編集後記を書いている。近藤選手の快挙を筆頭に、本年度は徳島県剣道連盟のご協力のおかげで、巨選手の姿を多く見ることができた。巨選手の姿を多く見ることができた。

つてきている中学校選抜選手の予想以上の技術的なレベルの高さに驚かされている。日頃の指導者の方々のご苦労が目につかび、それらの方々の努力に敬意を表したい。

ただ、一つ気になることがある。三日間、県下から選抜された中学生と寝食を共にし、社会生活をしていく上で、人間としての基本が身につけていない生徒が、あまりにも多いということを感じた。道場内での礼儀、お世話になった食堂や宿舎の方々への言葉づかい、時間を大切にしていこうとする感覚等、人間として成長していく途中の中学生であることを割り引いても、基本的な社会常識を知らなさすぎると感じた。一

人一人と話をしていると、みんな良い生徒だし、キラリと光るものを持っているが、剣道の技術優先、心がどこかへ置き忘れられてきたような気がする。

「剣は人なり 心なり  
剣を学ばんとする者は  
心を学べ 心正しからざれば  
剣また正しからず」  
剣道人が、今一度、思い起こしたい言葉である。

最後に、本誌発刊に際して、ご多忙にもかかわらず原稿の執筆等、ご協力いただいた方々に感謝の意を表します。ありがとうございます。  
(石井 博)

発行日 昭和六十一年四月五日  
発行所 徳島県剣道連盟  
編集 徳島県剣道連盟広報部  
印刷所 グランド印刷